

# PROBLEM PARADISE

Issue 84

Vol.21

October-December 2018



Journal of Japanese Chess Problem Society

# Contents

Orthodox	……1
Endgame	……4
Helpmate	……11
Selfmate	……22
Fairy	……24
Retro	……34
Shogi	……38
第 15 回 International Solving Contest のお知らせ	……10
2019 年度海外誌購読斡旋について	……23
JCPS Informal Tourney Award (corrected)	……41
楽しいレトロプロブレム (5) (高坂研)	……42
Book Sale	……51
Definitions	……53
第 82 号解答成績	……Cover 3

各セクションごと、および全体で、1 題 5 点として成績を集計します。オーソドックスの #2 以外の作品については、主要変化と思われるものをすべて記入してください。短評大歓迎。各セクションごとに別紙を使用し、それぞれに氏名を記入すること。締め切りは **2019 年 1 月 31 日** 消印有効。宛先は Solution Editor の若島まで。また、作品の投稿は直接に担当者へ。

All solutions should be sent to the Solution Editor Tadashi Wakashima (Niina 7-8-13, Minoh-shi, Osaka 562-0005, Japan) before **January 31, 2019**. Please write down your solutions of each section in separate sheets. Solutions and comments by e-mail (tadashi@hcn.zaq.ne.jp) are most welcome. All originals should be submitted to the sub-editors. Their names and (e-mail) addresses are given on the back cover. Computer-tested problems are indicated by C+.

第 84 号をお届けします。年内発送のために、世界大会参加報告と Sake Tourney の結果が積み残しになってしまいました。次号に掲載の予定です。

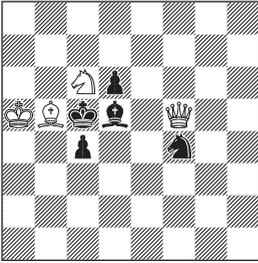
\* 本号のビッグ・ニュース。あの出口信男さんが、ついにフェアリー界に帰ってきました。U コースに新作を 2 作ひっさげて、本誌初登場！ 出口さんにしかできない異次元の発想をお楽しみください。ぜひ多数の解答をお願いいたします。

\* 上谷直希さん、松崎直樹さんに、賛助会員になっていただきました。ありがとうございます。

\* Helpmate のセクションの担当者を募集しています。ぜひ若手の方に引き受けていただきたいと思います。

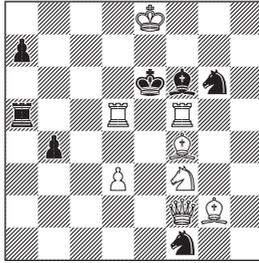
\* 本号に短いお知らせを出しているとおり、『チェス・プロブレム入門』ができあがりました。年明けには刊行されていると思いますので、本号でこちらもお知らせを出している、International Solving Contest のときには現物を持っていけるかと思えます。みなさまのご参加をお待ちしています！

**D482** Aleksandr Pankratyev  
C+ (Russia)



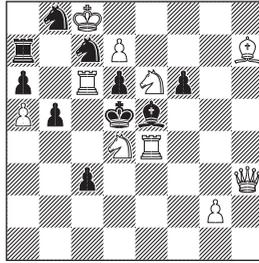
#2 (4+5)

**D483** Aleksandr Pankratyev  
C+ (Russia)



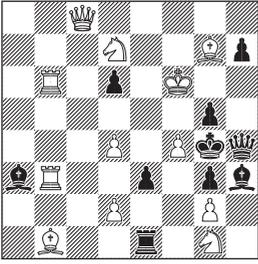
#2 (8+7)

**D484** Aleksandr Pankratyev  
C+ (Russia)



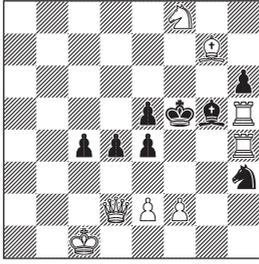
#2 (10+10)

**D485** Gheorghe Tanase  
C+ (Romania)



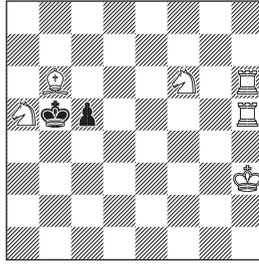
#3 (12+10)

**D486** Leonid Makaronez  
C+ (Israel)



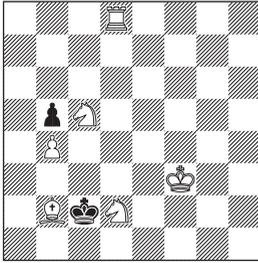
#3 (8+8)

**D487** Aleksandr Pankratyev  
C+ (Russia)



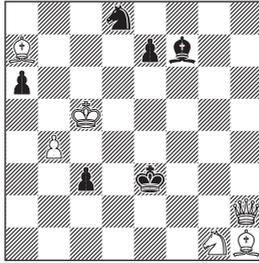
#3 (6+2)

**D488** Aleksandr Pankratyev  
C+ (Russia)



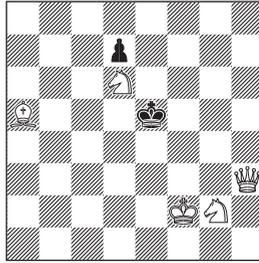
#3 (6+2)

**D489** Petrasin Petrasinovic  
C+ (Serbia)



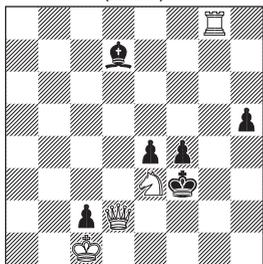
#3 (6+6)

**D490** Petrasin Petrasinovic  
C+ (Serbia)



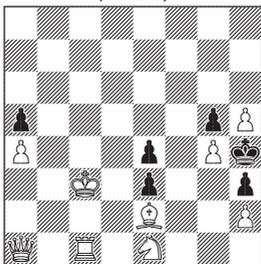
#3 (5+2)

**D491** Leonid Makaronetz (Israel)  
C+



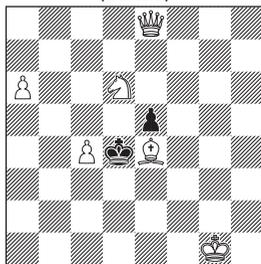
#4 (4+6)

**D492** Miloje Ilić (Serbia)  
C+



#4 (9+6)  
b)Kc3→a1

**D493** Petrasin Petrasinovic (Serbia)  
C+



#4 (6+2)

## Orthodox

### Orthodox Editor

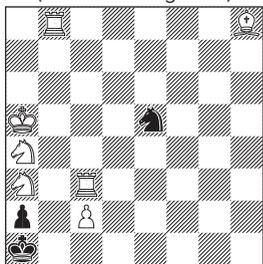
Yuji Kikuta (菊田裕司)

Judge 2018-2019

Mike Prcic (USA)

### Issue 82 (D467-476)

**D467** Miroslav Subotic (Bosna Hercegovina)  
C+



#2 vv (7+3)

- 1.Rd8? (2.Rd1#) 1...Sd7!
- 1.Rf8? (2.Rf1#) 1...Sf7!
- 1.Re8! waiting
- 1...S~~/Sf3/Sd3/Sc4+/Sc6+
- 2.Re1/Rxf3/Rxd3/Rxc4/Rxc6#

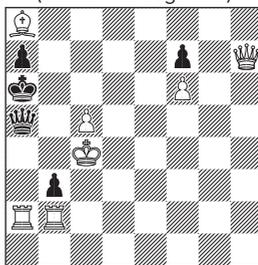
小林：Key は直感だが try に悩む。

井上：スレットがないキーが正解というのがおもしろい。

原岡：Sの動きを牽制する

[○7△0×0-1]

**D468** Miroslav Subotic (Bosna Hercegovina)  
C+



#2 (7+5)

- 1.Qd3! (2.Kxb3/Kd4/Kd5/Qd6#)
- 1...Qxa2/Qa3/Qa4+/bxa2
- 2.Rxa2/Rxa3/Rxa4/Bb7#

Author: OJANEN THEME

☆このテーマは正確には分からないですが、手順から推測すると複数（3つ以上）のスレットを持つキーに対する変化で、すべてスレットとは違うメイトになるというテーマではないかと思えます。これがキーに対してスレットのいずれかのメイトに限定されるというテーマが Fleck のテーマで、そのパリエーションのような感じでしょうか。

小林：Qxa2 でも詰む手を考える。

星野：Qxa2 を考えると、これしかない。

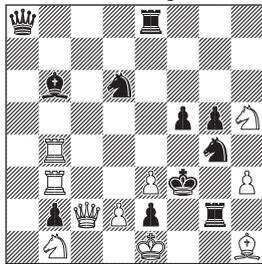
井上：白Kが動いて詰みというのがいい。

宮嶋：素直でかわいい手順。

☆テーマは分かるのですが、いかんせんキーがほぼ絶対なのと、メイトが平凡なのが残念です。

[○8△0×0-0]

**D469** Miroslav Subotic  
C+ (Bosna Hercegovina)



#2 v (10+11)

1.d4? (2.Sd2#) (2.Qxe2 ?)

1...Se4/Sc4 2.Qxe2/Qxf5# But 1...Qa1!

1.d3! (2.Qxe2#) (2.Sd2 ?)

1...Rxe3/Kxe3 2.Sd2/d4#

Author : SUSKOV THEMA

☆ Suskov(Sushukov) のテーマもよくわかっていないのですが、2つ以上のフェーズで、白の手に共通の効果があって2つ以上のスレットがあるように見えるがどちらもマイナス効果もあってスレットは一つしか有効でない、というテーマのようです。本局の場合、まずtryの1.d4でQの横利きを通すとともにSd2の場所を作りますが、d4は一方でRb4の横利きを止めてしまっているの、2.Qxe2?は無効でスレットとしては2.Sd2#のみです。キーの1.d3の方も同様にQの横利きを通すとともにSd2の場所を作りますが、d3は一方でRb3の横利きを止めてしまっているの、2.Sd2?は無効でスレットとしては2.Qxe2#のみです。

☆本局の場合、tryと本手順共に、無効なスレットが変化によってメイトとして復活するところ(1.d4? Se4 2.Qxe2# と 1.d3! Rxe3 2.Sd2#) がうまい構成と思いました。

☆惜しいのはa8Qの配置で、tryに対する

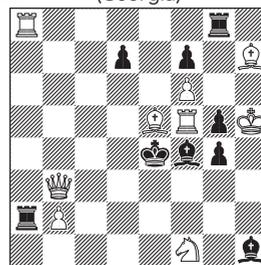
1...Qa1!の受けを用意するためだけで、さらにこれを置いたばかりにb2Pまで必要になったのがもったいないです。他のフェーズでも意味を持たせるか、tryに対する受けを他の手にするか、もう少し何とかならなかったものかと思います。

☆投稿原図にはf5Pがなく、1.Rxg4のcookがありました、担当の方で修正しました。

星野：1手でd4の方が効率が良さそうだが、そうではなかった。

[○5△0×1-2]

**D470** Gvi Mosiashvili  
C+ (Georgia)



#2 vv (9+9)

Set 1...Bf3 2.Qc4#

1.Re8? (2.Rxf4#) 1...Bxe5 2.Qc4#

1...Rxe8 2.Rg5# but 1...Rg6!

1.Kxg4! (2.Qc4#)

1...Bxe5 2.Rf4

1...Bf3+ 2.Qxf3#

1...Rc8 Rxg5#

1...Ra4 2.Rxa4#

1...d5 2.Qc2#

Author: Le Grand theme, changes mate.

星野：一目Kxg4だが、これを確認するためにvを確かめてみる。

☆ 1.X (2.Rxf4 A) 1...Bxe5 a Qc4 B 1.Y (2.Qc4 B) 1...Bxe5 a 2.Rxf4 A) のように一つの応手に対してメイトが入れ替わるのがLe Grand themeです。またSet 1...Bf3とキーに対する1..Bf3でメイトが変化します。

☆作者の意図としては上記のようにtryは一つだったのですが、私のミスでvvとしてしまいました。まあ1.Rxg8? Bxe5という紛れもあ

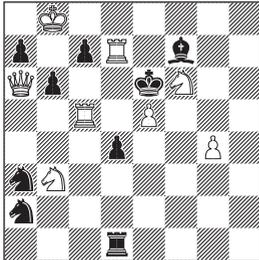
りますが、テーマとは関係ありません。

☆キーに対する変化が多く楽しめます。

[○2△0×0-6]

### D471 Aleksandr Pankratyev

C+ (Russia)



#2 vv (8+9)

(8+9)

1.Rdxc7? (2.Qc8#) 1...Be8!

1.Sh7? (2.Sf8#) 1...Kxd7!

1.Sg8? (2.Re7#) 1...Kxd7 2.Qc8#

but 1...Bxg8!

1.Qf1? (2.Qf5#) 1...Rxf1 2.Sxd4

but 1...Bg6!

1.Qe2? (2.Rc6#)

1...Rc1/Sc4(Sb5)/bxc5

2.Sxd4/Qxc4/Sxc5# but 1...Sb4!

1.Qc8? (2.Rdxc7#) 1...Be8 2.Qxe8#

but 1...bxc5!

1.Rcd5? (2.Sc5#) 1...Rc1 2.Sxd4#

but 1...c6!

1.Sd5! (2.Re7#)

1...Kxe5/Kxd7 2.Qe2/Qc8#

星野：後だしじゃんけんみたいな。

☆これも私のミスで vv と表記しましたが、作者の意図は上記のように v が 7 つです。

☆それらしい手がいろいろあって考えさせられます。ただ何かテーマになっているかというところでもないようです。

[○2△0×0-6]

### D472 Aleksandr Pankratyev

C+ (Russia)



#3

(9+14)

1.Rd8! (2.Qxd5+ Kxf5 3.Bg4#)

1...Qh3/Qg2/Qe2/f3 2.Sg6+ Kd3 3.Sxf4#

1...Bb3 2.Sc6+ Kd3 3.Sb4#

1...Sc3/Rc5/Rg2 2.Sd7+ Kd3 3.Sc5#

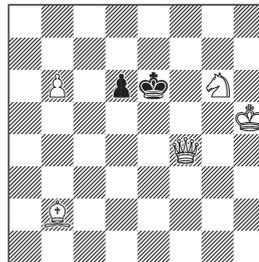
星野：変化多くて、見落とししそ。

☆同じメイトになる変化がいくつかあるのが残念なところです。あと、もう少し工夫すればあと変化一つぐらい S の開き王手の場所を増やせそうな気がするのですが。

[○1△0×0-7]

### D473 Petrasin Petrasinovic

C+ (Serbia)



#3

(5+2)

1.Qa4!

1...Kf7 2.Qd7+ Kg8 3.Qg7#

1...d5 2.Qe8+ Kf5/Kd6 3.Qe5/Ba3#

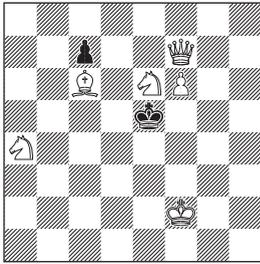
1...Kd5 2.Sf4+ Kc5 3.Bd4#

星野：Qa4 で一気に狭くなる。

☆簡潔な図ですが model mate はなく、何となくすっきりしない感じです。

[○1△1×0-6]

**D474** Petrasin Petrasinovic  
C+ (Serbia)

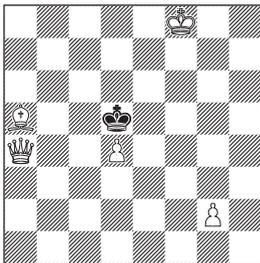


#3 (6+2)

- 1.Be4 !  
 1...c5/c6 2.Saxc5 Kd6 3.Qc7#  
 1...Kd6 2.Qxc7+ Kxe6 3.Qe7#  
 1...Kxe4 2.Qh5 (3.Sac5#) Kd3 3.Qe2#

星野 : c5 と c6 がどちらでも良いのが不満。  
 ☆たしかに。これは全体を一段下にずらせば直り、そのほうが良いと思います。  
 [ ○ 1 △ 0 × 0 - 7 ]

**D475** Petrasin Petrasinovic  
C+ (Serbia)



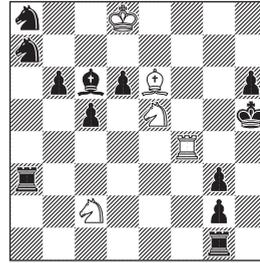
#4 (5+1)

- Set 1...Ke6 2.Qc6+ Kf5 3.Bd8 Kf4 4.Qf3#  
 1.Bd2 ! (2.Ke7 Ke4 3.Qc4 Kf5 4.Qe6#)  
 1...Ke6 2.Qc6+ Kf5 3.Qd5+ Kg4/Kf6(Kg6)  
 4.Qg5/Qf7#  
 1...Kd6 2.Qc4 Kd7 3.Bf4 Kd8 4.Qc7#  
 1...Ke4 2.Qc4 Kf5 3.Qd5+ Kg4/Kf6(Kg6)  
 4.Qg5/Qf7#

星野 : じっと眺めていても解けないので、駒の利きを塗りつぶしてやっと解いている。  
 ☆ 1...Ke6 と 1...Ke4 が途中から同じになるの

が残念なところです。  
 [ ○ 1 △ 0 × 0 - 7 ]

**D476** Ioannis Kalkavouras  
Jacques Rotenberg  
C+ (Greece, Israel)

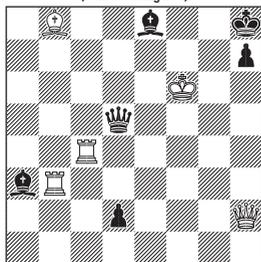


#7 (5+12)

- 1.Sd4 ! (2.Bf7+ Kg5 3.Se6#)  
 1...cxd4 2.Bg4+ Kh4 3.Bh3+ Kg5(Kh5)  
 4.Rf5+ Kh4 5.Sg6+ Kxh3 6.Rf4 (7.Rh4#)  
 1...Bd7 2.Kxd7 cxd4 3.Bg4+ Kh4 4.Rf5  
 (5.Rh5#) dxe5 5.Be2 (6.Rh5#) Rf3 6.Bxf3  
 (7.Rh5#)

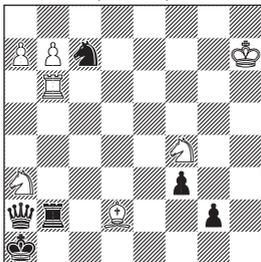
Author : Model mates, swichbacks, sacrifices of white pieces, battery, quiet moves.  
 ☆ 1.Bg4+ ? Kh4 2.Bh3+ Kg5(Kh5 3.Rf5+ Kh4 4.Sg6+ Kxh3 5.Rf4 とするのは 5...Ra4! Rxa4 6.c4 と手数稼ぎの受けをされて失敗。そこで 1.Sd4 と捨ててあらかじめ Ra4 の受けを消しに行きます。1...cxd4 なら先ほどの手順でメイト。黒は 1...Bxd7 とやけくそな捨て駒をして手数を稼ぎに行きます。今度は先ほどと同じように 4.Bh3+ と進めるのは一手足りなくなってしまいます。そこで 4.Rf5 ! から 5.Be2 で詰ましに行きます。黒 B がなくなったので Bf3 の受けが効かなくなっています。  
 ☆ Bd7, Rf3, Ra4, c4 がいずれも単なる手数稼ぎのやけくそな捨て駒なのが面白いです。  
 [ ○ 0 △ 0 × 0 - 8 ]

**E095** Ilham Aliev  
(Azerbaijan)



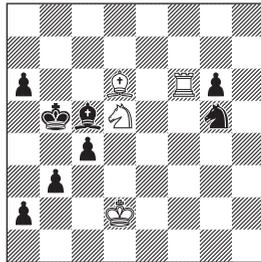
Win (5+6)

**E096** Andrzej Jasik  
(Poland)



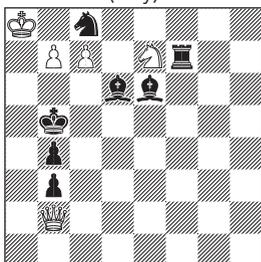
Draw (7+6)

**E097** Franco Bertoli  
(Italy)



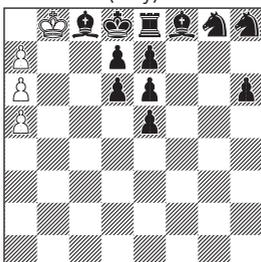
Draw (4+8)

**E098** Marco Campioli  
(Italy)



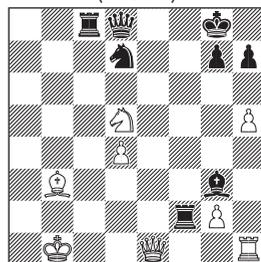
Black to Move, Draw (5+7)

**E099** Daniele Gatti  
(Italy)



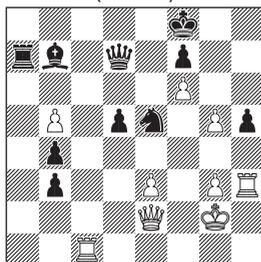
Draw (4+12)

**E100** Peter Krug  
(Austria)



Win (8+8)

**E101** Peter Krug  
(Austria)



Win (9+10)

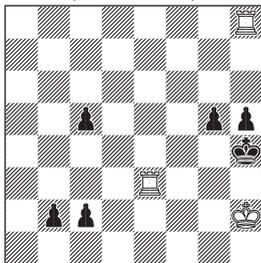


両方ともSに成るしかないが、結局Bによるメイトを防げない。

Inoue: Black pawns are forced to promote to S's to avoid mate, but cannot avoid mate by the bishop eventually.

[○0△2×0]

**E084** Jan Timman  
(Netherlands)



Draw (3+6)

1.Rf8! g4 2.Rg8! c4 3.Rg3! c1=B! 4.Rb8 c3 5.Rxc3 Bf4+ 6.Kg2 Bxb8 7.Rb3 Be5 8.Rb5 Bf6 9.Kh2! Bd4 10.Kg2 Bc3 11.Kf2! g3+ 12.Kf3 Bd4 13.Kg2 Kg4 14.Rb4 Draw

☆黒のプロモーションは確定しているので、白は急がなくてはなりません。まず 2.Rh3+ Kg4 3.Rg3+ のパーペチュアルを狙って 1.Rf8! とします。1...g4 に対して、今度は 2.Rg8! で、2...c1=Q なら 3.Rh3+ gxh3 4.Rg4+ でスタイルメイトです。

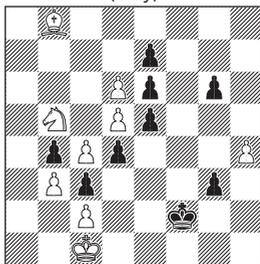
☆ 2...c4 3.Rg3! となって黒は 3...c1=B! とアンダープロモーションで打開します。白は 4.Rb8 と b ファイルの防御に回り、以下 4...c3 5.Rxc3 Bf4+ 6.Kg2 Bxb8 7.Rb3 Be5 8.Rb5 Bf6 9.Kh2! (9.Kf2? Kh3) Bd4 10.Kg2 Bc3 と黒が打開に来たところが最後の考え所です。

☆ 手なりで 11.Kh2? と戻ると、11...g3+ 12.Kg2 Kg4 で Rb4+ が指せない白は負けになります。正解は白もここで 11.Kf2! と打開する手。以下 11...g3+ 12.Kf3 Bd4 13.Kg2 Kg4 14.Rb4 と進んでドローです。

☆ シンプルな構成の佳作と思います。

[○0△1×1]

**E085** Daniele Gatti  
(Italy)



Win (9+9)

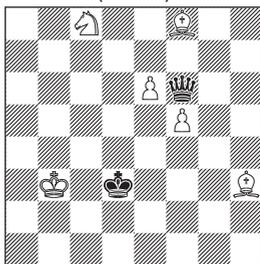
1.Sxd4! g2 2.Se2! Kxe2 3.Ba7 e4 4.Bg1! Kf1 5.dxe7 Kxg1 6.e8=Q Kh1 7.Qxg6 exd5 8.cxd5 g1=Q 9.Qxg1+ Kxg1 10.d6 e3 11.d7 e2 12.d8=Q e1=Q+ 13.Qd1 Kf2 14.Qxe1 Kxe1 15.h5 Win

☆異形の配置ですが、g ポーンのプロモーションが見えているので、1.Sxd4! g2 (1...exd4 2.dxe7 g2 3.Bh2) 2.Se2! Kxe2 3.Ba7 までは必然です。

☆効きを止めようとする 3...e4 に対して 4.Bg1! も手筋。以下、4...Kf1 5.dxe7 Kxg1 6.e8=Q Kh1 7.Qxg6 と進み、以下もほぼ一直線の作意でした。

[○0△0×2]

**E086** Pavel Arestov  
(Russia)



Win (6+2)

1.Bf1+! Kd4! 2.e7 Qxf5! 3.Bg7+ Kc5! 4.e8=Q Qe6+! 5.Kc3! Qxe8 6.Bd4+ Kd5 7.Bc4+ Kc6 8.Bb5+! Kxb5 9.Sd6+ Kc6 10.Sxe8 Win

☆駒割りは白が優勢で、1.e7 ~ 2.e8=Q のプロモーションも見えています、いきなり 1.e7? とするのは、1...Qc3+ 2.Ka4 Qxc8 で失敗です。1.Bb4? が Qc3+ を防ぎながらうまい手に見えますが、1...Qa1! が好手で、2.e7 Qd1+ 3.Kb2 Qe2+ 4.Ka3 Kc2! 5.Sb6 Qa6+ 6.Sa4 Qd3+ 7.Sc3 Qa6+ でドローです。

☆正解は単純に 1.Bf1+ のチェック。1...Kd2 には、2.Bb4+ Kc1 3.Ba3+ Kd2 4.Sd6 以下で白勝ちなので、1...Kd4 2.e7 Qxf5 (2...Qc6 3.Sa7 Qc3+ 4.Ka4 Qa1+ 5.Kb5 Qxf1+ 6.Kb6 Qe1 7.Sb5+ Kd3 8.Sc7+; 2...Qe5 3.Sd6 Qxd6 4.e8=Q) と進み、ここで 3.e8=Q? は、3...Qe6+! 4.Qxe6 でステイルメイトです。

☆白は 3.Bg7+ Kc5 を挟んでから 4.e8=Q とするのが正解。ステイルメイト狙いの 4...Qe6+! には 5.Kc3! Qxe8 とわざと Q を取らせます。そこから、6.Bd4+ Kd5 7.Bc4+ Kc6 8.Bb5+ Kxb5 9.Sd6+ で Q を取り返して、最小の駒を残して白勝ちとなります。

☆ステイルメイトをテーマにした Q のやり取りから、マイナーピースで収束する面白い作品でした。

[○0△0×2]

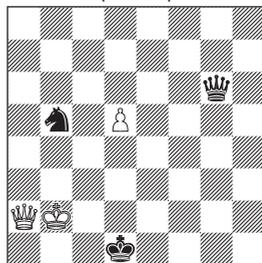
リングで応えますが、3.Qg6! がこの形の筋とは言え絶妙手。どちらのポーンで取っても簡単なメイトなので、黒はクイーンで取るしかないのですが、その前に 3...Bd4+ を挟みます。

☆直感的に 4.Kh1? と逃げたくなりますが、この変化は後述します。正解は 4.Kh2 で以下、4...Qxg6 (4...Be5+ 5.Kh1 Qxg6 6.Se7+) 5.Se7+ Kh8 6.Sxg6+ Kg8 7.Rxh7 Kxh7 8.Sxf8+ Kh6 9.a8=Q で白勝ちになります。

☆最終局面で白キングの位置が h1 だと 9...Rh5#. これが 4.Kh1? ではなく 4.Kh2 と逃げる理由でした。

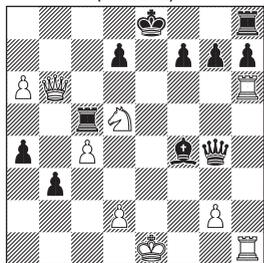
[○0△0×2]

**E088** Valery Kalashnikov (Russia)



Black to Move, Draw (3+3)

**E087** Peter Krug (Austria)



Win (9+11)

1.0-0 Be5 2.a7 0-0 3.Qg6! Bd4+ 4.Kh2 Qxg6 5.Se7+ Kh8 6.Sxg6+ Kg8 7.Rxh7 Kxh7 8.Sxf8+ Kh6 9.a8=Q Win

☆実戦初形。1.Qxc5? Bg3+ は白負けなので、実戦らしく 1.0-0 とキャスリングします。黒は、1...Be5 (1...0-0? 2.Rxf4) 2.a7 0-0 とキャス

1...Qg2+ 2.Ka1 Qg7+ 3.Qb2 Qa7+ 4.Qa2 Qd4+ 5.Qb2 Sc3 6.Qb3+ Kd2 7.Kb2 Sxd5+ 8.Kb1 Qg1+ 9.Ka2 Sc3+ 10.Ka3 Qc5+ 11.Kb2 Sd1+ 12.Ka2 Sc3+ 13.Kb2 Draw

☆ Black to move で初手は自然な 1...Qg2+。2.Kb3? は Qxd5+ 3.Kb2 Qe5+ 4.Kb3 Sd4+ 以下黒勝ちなので、2.Ka1 Qg7+ 3.Qb2 Qa7+ 4.Qa2 (4.Kb1? Sa3+ 5.Ka2 Sc4+) Qd4+ 5.Qb2 までほぼ一直線。

☆ここで黒の網を絞る手 5...Sc3 に対して、白は 6.Qb3+ Kd2 (6...Kc1 7.Qb2+ Kd1 8.Qb3+) 7.Kb2 と脱出しますが、黒は 7...Sxd5+ 8.Kb1 Qg1+ 9.Ka2 Sc3+ 10.Ka3 Qc5+ 11.Kb2 (11.Qb4? Qa7+) Sd1+ と連続チェックで迫ります。ここで 12.Ka1? は 12...Qc1+ 13.Qb1 Qc3+ 14.Ka2 Qa5+ 15.Kb3 Qb5+ で黒勝ちですが、冷静に

12.Ka2 Sc3+ 13.Kb2 と逃げてドローになります。

☆データベースの助けなしには、やや難しい作品でした。

[ ○ 0 △ 0 × 2 ]

☆今回は2名の方から解答をお寄せいただきました。ありがとうございます。

## 第15回 International Solving Contestのお知らせ

第15回のInternational Solving Contest (略称ISC) が来年の1月に世界各地で同時開催されます。ぜひ多数の方のご参加をお待ちしています。

**日時：2019年1月27日(日)**

受付：午前9時30分より

**競技開始：午前10時から**

(以前より少し早くなっておりますので、ご注意ください。)

主催：JCA

**場所：森下文化センター**

3階 第2+3会議室

東京都江東区森下3-12-17

(TEL) 03-5600-8666

交通：都営地下鉄新宿線・大江戸線「森下」駅 A6出口より徒歩8分。または都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線「清澄白河」駅 A2出口より徒歩8分。

参加費：1500円(カテゴリー3参加者は無料)

競技方法：カテゴリー1(上級向き)、カテゴリー2(中級向き)カテゴリー3(ジュニア向き)に分かれます。カテゴリー1と2は、2時間のラウンドを2回。カテゴリー3は2時間のラウンドを1回。

カテゴリー1は#2, #3, #n, endgame, H#, S# それぞれ2題ずつ計12題。

カテゴリー2は#2が4題、#3, #n, endgameがそれぞれ2題ずつ、H#, S# がそ

れぞれ1題ずつで、計12題。

カテゴリー1はレーティング対象となります。

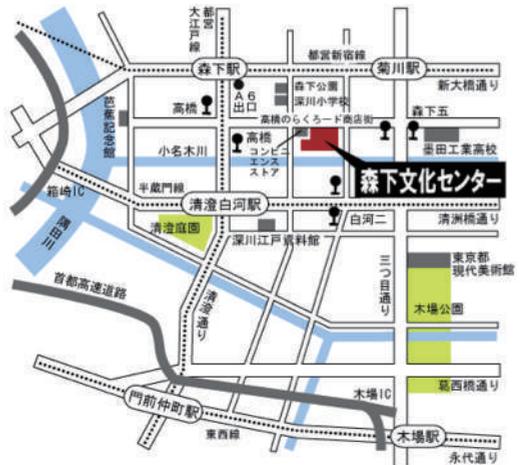
12歳までのジュニアを対象にしたカテゴリー3は、#2が4題、#3が1題、endgameが1題の計6題です。駒数の少ない、初心向きの問題が出題されますので、チェスプロブレムを解いてみようというジュニアの方の参加をお待ちしています(保護者の方の同伴もオーケーです)。

賞：それぞれのカテゴリーで上位3名にチェス書籍を贈呈。

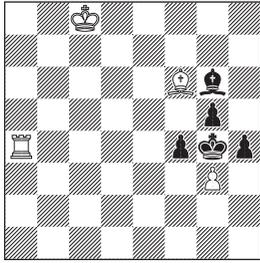
注意事項：**盤駒は必ず各自でご用意ください。**ラウンドの間に1時間の休憩がありますが、昼食は用意しておりません。

参加希望のカテゴリーを明記のうえ、若島まで葉書かメールにてお申し込みください。締め切りは**1月20日(必着)**。

また、競技終了後、5時過ぎ頃から、会場そばの中華料理屋「楽楽」で恒例の打ち上げを行います。こちらだけの飛び入り参加も大歓迎です！みなさまのお越しをお待ちしています。

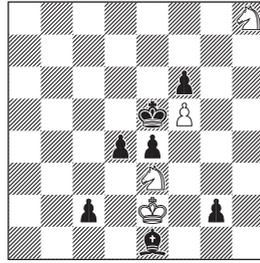


**H1041** Miloje Ilic  
C+ (Serbia)



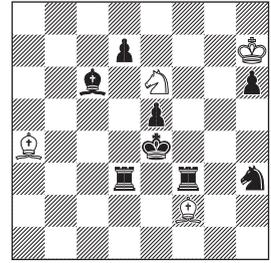
H#2 3sols (4+5)

**H1042** Lubos Kekely  
C+ (Slovakia)



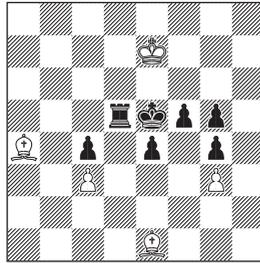
H#2 2sols (4+7)

**H1043** Mohamed Jamal Elbaz  
C+ (Morocco)



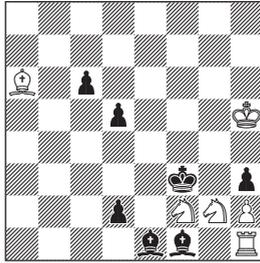
H#2 4sols (4+8)

**H1044** Lubos Kekely  
C+ (Slovakia)



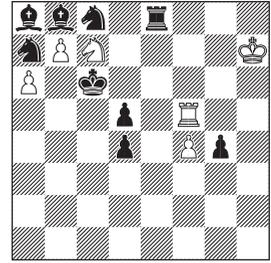
H#2 2sols (5+7)

**H1045** Christer Jonsson  
C+ (Sweden)



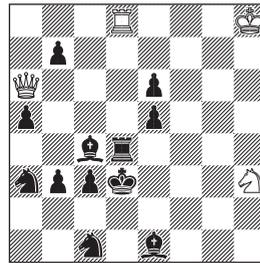
H#2 2sols (6+7)

**H1046** Jozef Lozek  
C+ (Slovakia)



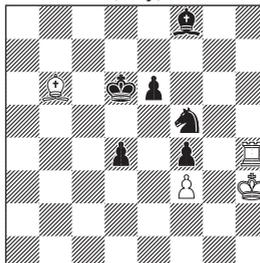
H#2 (6+9)  
b) bKc6→e4

**H1047** Stefan Milewski  
C+ (Poland)



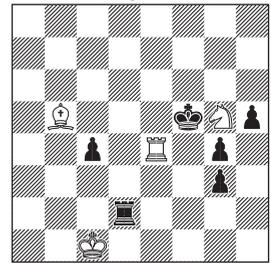
H#2 (4+12)  
b) bPc3→b4

**H1048** Vito Rallo  
C+ (Italy)



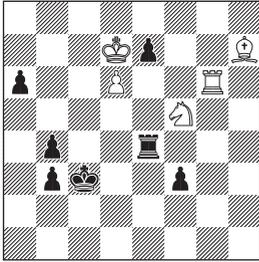
H#2.5 2sols (4+6)

**H1049** Rolf Wiehagen  
Christer Jonsson  
C+ (Germany, Sweden)



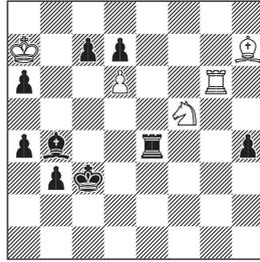
H#2.5 3sols (4+6)

**H1050** Vito Rallo  
C+ (Italy)



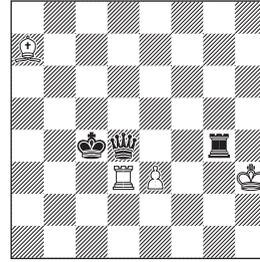
H#2.5 2sols (5+7)

**H1051** Vito Rallo  
C+ (Italy)



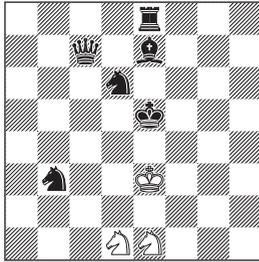
H#2.5 3sols (5+9)

**H1052** Kankuh Kobayashi  
C+ (小林看空)



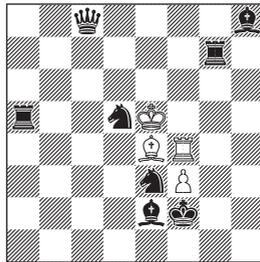
H#3 2sols (4+3)

**H1053** Christer Jonsson  
C+ (Sweden)



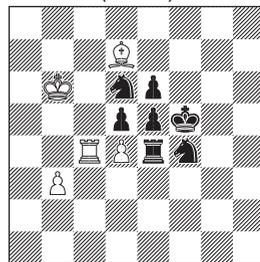
H#3 3sols (3+6)

**H1054** Aleksandr Pankratjev  
Aleksey Ivunin  
C+ (Russia)



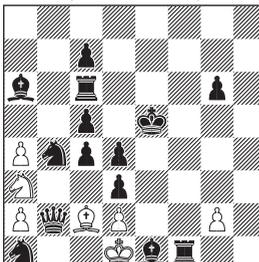
H#3 2sols (4+8)

**H1055** Alexander Pankratjev  
C+ (Russia)



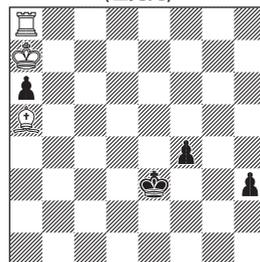
H#3 2sols (5+7)

**H1056** Christopher J.A. Jones  
C+ (Great Britain)



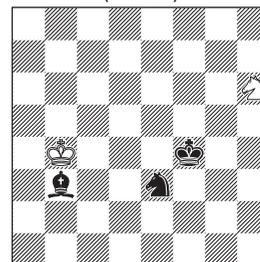
H#3.5 (7+14)  
b) wSa3→h1

**H1057** Ryo Shiomi  
C+ (塩見亮)



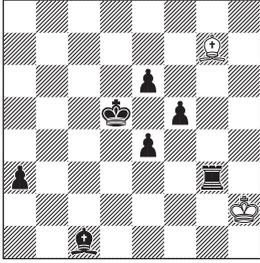
H#4 2sols (3+4)

**H1058** Stefan Milewski  
C+ (Poland)



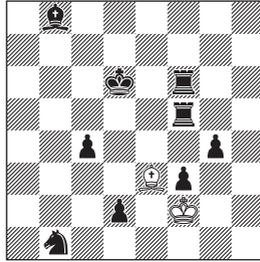
H#5 (2+3)

**H1059** Alexander Pankratjev  
C+ (Russia)



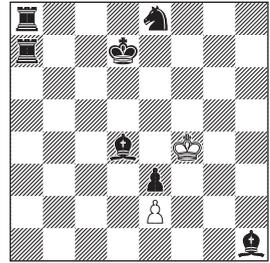
H#5 (2+7)

**H1060** Zlatko Mihajloski  
C+ (Macedonia)



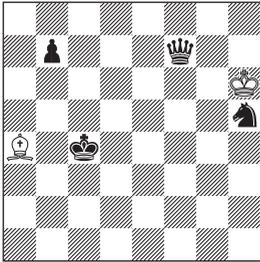
H#5.5 (2+9)

**H1061** Alexander Pankratjev  
C+ (Russia)



H#6 (2+7)

**H1062** Fadil Abdurahmanovic  
C+ (Bosnia Hercegovina)



H#7.5 (2+4)

## Helpmate

This issue has 22 compositions.

### Helpmate Editor

Masato Yoshii [吉井雅人]

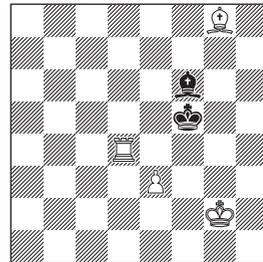
Judge 2018

Nikola Stolev (Macedonia)

今号は 22 問の出題です。担当を引き継いで頂ける方を随時募集しております。チェスのルールを知っていて、海外の作家とのやり取りが苦にならない方であれば、どなたでもできます。プロブレムを勉強できる最高の環境ですので、興味のある方はお寄せください。

### Issue 82 (H999-1020)

**H999** Miloje Ilic  
C+ (Serbia)



H#2\* 2sols (4+2)

SetPlay 1... Kf3 2. Ke5 Rd5#

1. Be5 Rd3 2.Ke4 Bh7#

1. Bh4 Rd5+ 2. Kg4 Be6#

井上：黒 K は動いているのだが、最終手は初手でもチェックとなる手。

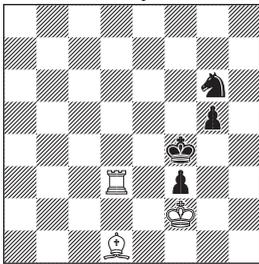
則内：Nice goals by B from both sides

○簡素な初形から、きれいなコントラストの軽快作。

MY：Solutions have good harmony with economical setting.

### H1000 Vito Rallo

C+ (Italy)



H#2\* 2sols (3+4)

SetPlay 1...Bc2 2.Se5 Rd4#

1.Ke4 Rd5 2.Sf4 Bxf3#

1.Kg4 Rxf3 2.Kh5 Rh3#

井上：Set の初手が気づきにくい。

星野：黒 P がただの壁で働かないのが残念。

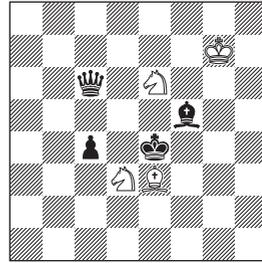
則内：Polite on the 1000th memorial.

○こちらも簡素な初形から軽い手順。

MY：A pleasant work with light setting.

### H1001 Zivko Janevski

C+ (Macedonia)



H#2 2sols (4+4)

1.Kd5 Bc5 2.Be4 Sf4#

1.Qd5 Sc5+ 2.Ke5 Bf4#

井上：S2 枚を含むメイト形は見つけにくい。初手と最終手のマス目が同じ（2手目も）。星野：S の利きは難しい。2 解目は中々見づからなかった。

則内：Surround K with cautious moves.

水野：B と S が c5 と f4 に行ってメイトにするんですね。

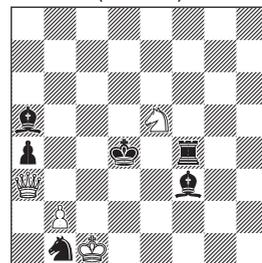
小林：マス目へのこだわり

○1 手目 d5/c5 と f4 でのメイト。マス目が共通であることが主張で、明快なコントラスト。簡素な初形ながら難解。

MY：A setting of B1 and W1 moves on the same squares d5/c5 with model mates on the same square f4 and cyclic changed functions of the white pieces in an economical position.

### H1002 Christer Jonsson

C+ (Sweden)



H#2 (4+6)

b) wRa3 c) wBa3 d) wSa3

- a) 1.Bb4 b3 2.Kc3 Qb2#
- b) 1.Bd5 Rc3 2.Re4 Sf3#
- c) 1.Be4 Kd1 2.Ke3 Bc5#
- d) 1.Kc5 Kc2 2.Kb4 Sd3#

井上：この条件は初めて見たが、うまくできている。

星野：凄い！良く4種で詰む型を作れますね。  
塩見：どうやったらこんな作品が作れるのか興味がある。

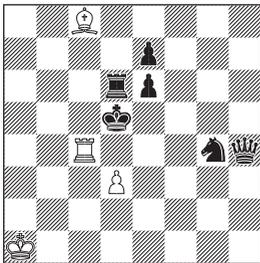
則内：The quartet on a3 is marvelous.

小林：色がわりを楽しむ

○あまり見ない条件の作品ですが、好評でした。よくこういう作品が作れますよね。

MY：A very interesting work by our regular contributor. All of solvers mentioned the surprising condition.

**H1003** Zivko Janevski  
C+ (Macedonia)



H#2 3sols (4+6)

- 1.Se5 Ba6 2.Qe4 dxe4#
- 1.e5 Bf5 2.e6 Be4#
- 1.Ke5 Bxe6 2.Qf6 Re4#

井上：e4への着手で詰ます3解。

星野：e5で始まり、e4で終わる首尾一貫性が凄い。

則内：The quartet on a3 is marvelous.

水野：B,R,P全部e4でメイトされているんですね。

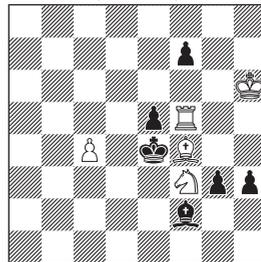
小林：初手と詰め上がりのマス目が同じ、夫々

違うコマ。

○皆さんお気付きの通り、e5で始まりe4でメイト、が主張です。

MY：Triple black play on the same square e5 in B1 move and mates on the same square (e4) in an elegant Meredith (Gravure) position.

**H1004** Christer Jonsson  
C+ (Sweden)



H#2 3sols (5+6)

- 1.exf4 Rd5 2.Be3 Sg5#
- 1.Kxf3 Bxe5+ 2.Kg4 Rf4#
- 1.Kxf5 Sd4+ 2.Kf6 Bg5#

井上：これはcyclic Zilahiが予想できる。

則内：Cyclic Zilahi as greatly expected.

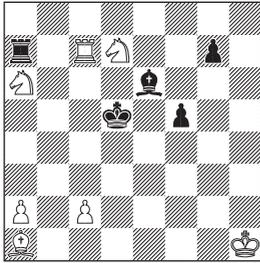
水野：サイクリック Zilahi。作者名があるのでわかりやすい。

小林：初手駒取り、詰め上がり同じマス目。これは流行なんでしょうね

○作者名から判断できるCyclic Zilahi。皆さん大方の予想通りでした。いつもながらJonssonさんの作品はきれいですね。

MY：An enjoyable cyclic Zilahi by our regular contributor.

**H1005** Christer Jonsson  
C+ (Sweden)



H#2 3sols (7+5)

- 1.Rxc7 a4 2.Kc4 Sb6#  
1.Rxa6 Rc4 2.Rc6 Rd4#  
1.Bxd7 Rxd7+ 2.Ke6 Sc5#

星野：他の2つは分ったが、Rxa6が難しかった。

塩見：初手で取られる駒と、メイトする駒が入れ替わる

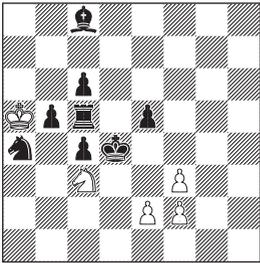
則内：Elaborate moves for cyclic Zilahi.

小林：a2のwPの意味をしばし考える。

○もう一つ、同じ作者のCyclic Zilahi.

MY：Another nice cyclic Zilahi by our regular contributor!

**H1006** Zivko Janevski  
C+ (Macedonia)



H#2 4sols (5+8)

- 1.Rd5 e3+ 2.Kc5 Se4#  
1.Sb2 e4 2.Sd3 Se2#  
1.Bf5 Kb4 2.Bd3 e3#  
1.Be6 Sxb5+ 2.Kd5 e4#

星野：Rd5～c5,Sxb5を巧みに防いでいる。

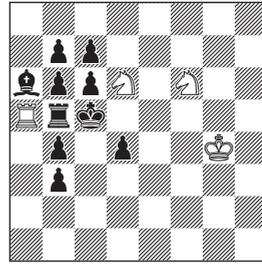
則内：Self blocks are impressive moves.

小林：we ポーンの死活躍

○ポーンの1、2ステップはこの作者お気に入りのテーマですが、それが1手目に来るか2手目に来るかの4解。テーマが鮮明です。

MY：A setting of two pairs of thematically connected solutions with changed function of the white moves, black self-block and WPe2 one-two play.

**H1007** Zivko Janevski  
C+ (Macedonia)



H#2\* 2sols (4+10)

- SetPlay 1...Ra1 2.cxd6 Rc1#  
1.b2 Ra4 2.b3 Sde4#  
1.bxa5 Sfe4+ 2.Kb6 Sc8#

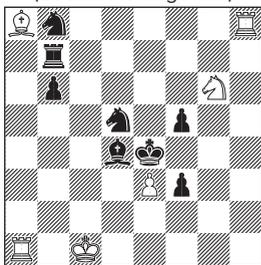
則内：Ra4 in the shade was unexpected.

小林：駒取りがテーマと思ったら、ポーンの動きの方に重きを置いていた。

○SetPlayも含めてZilahiですが、面白い手順。ポーンで取らせて空いたところにKが入ってSでメイトは定番ですね。初形は黒のPでの取りが非常に多い(12回)ですが、ぴったりlegalです。

MY：A presentation of Zilahi paradox theme in set-play form in an elegant position without white pawns. The position is legal! [The black pawns captures 12 times in Retro play, 4+12 white pieces = 16 pieces!]

**H1008** Fadil Abdurahmanovic  
C+ (Bosnia Hercegovina)



H#2 2sols (6+8)

Ded. to Masato Yoshii

1. Bxh8 Kd2 2. Rg7 Ra4#

1. Bxa1 Sf4 2. Sc3 Re8#

星野：どうやって a8 の B を活用するのかと  
考えたが、両端の R を眺めて謎が解けた。

塩見：2...Re8# の方のメイト形に意外性がある。

則内：Dynamism for Zilahi and self-interferences.

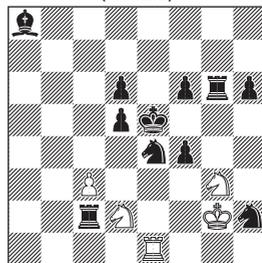
水野：Zilahi

小林：b8 の S に迷わされた。

○遊び心満載の面白い作品。Half-pin、bB のクリティカルムーブ x2、盤の隅の R を取る Zilahi になっています。さすが Abdurahmanovic さんという作品。

MY：Thank you so much for your dedication to me, Fadil! I love this humorous original very much. Half-pin, Critical moves by bB with humorous Zilahi! A masterpiece by a prominent composer.

**H1009** Aleksandr Pankratjev  
C+ (Russia)



H#2 2sols (5+11)

1. Rc1 Sdxe4 2. Rc2+ Sd2#

1. Sg4 Sgxe4 2. Sh2+ Sg3#

星野：元の形に戻すとは思わなかった。

則内：Switch-backs are plain and brilliant.

小林：逆王手テーマ！！同一詰め上がりとはネ

○ R と S がアンピンして戻るというシンプルなテーマ。詰め上がりは同じですが、解のコントラストもあり面白いと思います。

MY：Switchback of bR, wS, bS and 2xbS. The final position is same with both solutions.

**H1010** Abdelaziz Onkoud  
C+ (Morocco)



H#2 4sols (7+9)

1. Bc6 Sb3 2. d5 Sxc5#

1. Sc6 Bg4 2. Se5 Bxf5#

1. Sxd4 Bd1 2. Sf3 Bc2#

1. Bxd4 Be2 2. Be3 f3#

則内: Self-blocks are main. Bc6 is a bonus.

小林: 2つのテーマが盛り込んである。

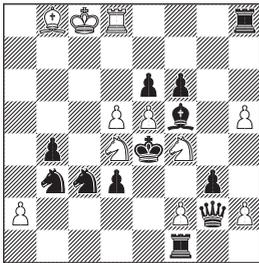
星野: 4解目(Bxd4)は、なぜBf3ではないのだろう?

駒井: SxS, BxB, SS ときたら BB と思う。対照的でない解にはいつも悩まされます。

○初手d4の取り、c6への移動という2つのテーマを盛り込んだのが主張だと思いますが、確かにコントラストは鮮明ではないですね。

MY: HOTF.xd4 and move to c6 are the two themes of this original.

**H1011** Abdelaziz Onkoud  
C+ (Morocco)



H#2 4sols (11+12)

- 1.Kxd4 axb3 2.Be4 Sxe6#
- 1.Kxf4 Rg8 2.Qe4 hxg3#
- 1.fxe5 Sh3 2.exd4 Sg5#
- 1.Sxd5 Sxb3 2.Sxf4 Sd2#

星野: Kの陰のP(d5/e5)をどうさばくか楽しみだったが、残りの2解は無関係で拍子抜け。

則内: R&B support soberly on rank 8.

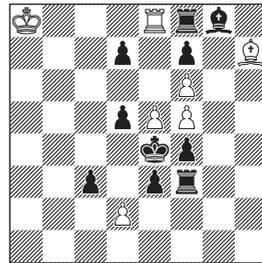
小林: 邪魔なwのコマを取っていく... 配置が仰々しい。

○私もうまく説明できないのですが、作者が開発した Compass Theme というものがあり、つまり2解の初手d4、f4に、残りの2解の2手目に違うピースが行くというもの

で、それがこの作品のテーマになっています。何が面白いのかと言われると、すいません私もわかりません。以下にテーマの詳細な説明があります。

<http://onkoud.com/wp/wp-content/uploads/2018/06/Le-th%C3%A8me-de-la-Boussole-The-Compass-Theme.pdf>  
MY: The Compass theme (North) combined the Zilahi theme.

**H1012** Aleksandr Pankratjev  
C+ (Russia)



H#2.5 (7+10)

b) bPf4→d3

- a) 1... Bxg8 2. Kxf5 dxc3 3. Ke4 Bh7#
- b) 1... Rxf8 2. Kxe5 dxe3 3. Ke4 Re8#

星野: 予定通りPを取って戻る。

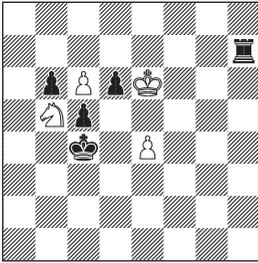
則内: Witty switch-backs by bK and whites.

小林: 地味なBlack駒の消去

○シンプルですがR、B、KのSwitchbackになっており、解のコントラストもわかりやすいです。

MY: Switchback of R, B, K. Solutions have good contrast.

**H1013** Vito Rallo  
C+ (Italy)

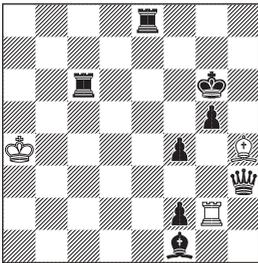


H#3 Duplex (4+5)

1.Rd7 cxd7 2.Kxb5 d8=Q 3.Kc6 Qd7#  
1.e5 Kxb5 2.Kd5 Rh4 3.e6 Rd4 #

井上：白Kを詰めるほうが難しかった。  
星野：駒が無駄なく二重に活用されていて、Rの縦横の移動も良い感じ。  
則内：R is the best player despite Duplex.  
○テーマはあまりないと思いますが、あえて言うなら簡素な Duplex という点でしょうか。  
MY：A Duplex with very economical setting.

**H1014** Jozef Lozek  
C+ (Slovakia)



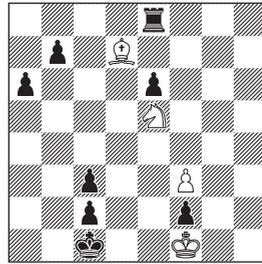
H#3 (3+8)

b) bKg6→e2

a) 1.Kh7 Bxg5 2.Rh6 Bf6 3.Rh8 Rg7#  
b) 1.Kd1 Bxf2 2.Re1 Be3 3.Rc1 Rd2#

塩見：テーマがわかりませんでした。  
則内：Both Rs confine bK to the walls.  
小林：このテーマなら初手を削って H#2.5 としたほうがいい？？！  
○単にメイト形が同じ、ということだと思うのですが、この作者は同じメイト形を縦横に作って 2 解にする傾向がありますね。  
MY：Both solutions have same mating shape in Meredith.

**H1015** Christer Jonsson  
C+ (Sweden)



H#3 2sols (4+8)

1.Rb8 Bc6 2.bxc6 Ke2 3.Rb1 Sd3#  
1.Kd1 Sc4 2.c1=B Sd2 3.cxd2 Ba4#

星野：Pb7がいなければ R を b1 に回して詰むと分かっているのに、Bc6 と捨てるのが意外と盲点になって難しかった。  
則内：Artistic suicides to complete Zilahi.  
小林：自らポーンに取られに行く白の駒たち  
○能動的に白がピースを捨ててに行くところは感触が良いですね。Zilahi にもなっています。  
MY：Comfortable active sacrifices with Zilahi.

**H1016** Christopher J.A. Jones  
C+ (Great Britain)



H#3 (3+11)

b) bPd6→d5

a) 1. Qe6 Rg4 2. Kd5 Rxb4 3. Be4 Bxe4#

b) 1. Bc7 Bxh3 2. Kd6 Bc8 3. Re6 Rxe6#

星野：BB、RRが如何にも取ってくれと言っている様。

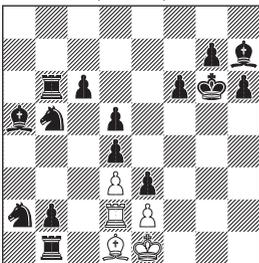
則内：Be4 and Re6 are attractant moves.

小林：何かやけっぱち中合いのイメージがする

○ Kが動く解きづらいH#3ですが、無理やり取らせる Pelle move が主眼でしょうか。解のコントラストがきれいなのはさすがです。

MY：Active sacrifices and Pelle move. Solutions have good harmony.

**H1017** Gennady Chumakov  
C+ (Russia)



H#4 (5+15)

b) bPg7→h5

a) 1.Sc3 Rxb2 2.Sc1 Rb5 3.S1xe2 Rxd5 4.Sc1 Bh5#

b) 1.Sc1 Bb3 2.Sc3 Bxd5 3.S3xe2 Be6 4.Sc3 Rg2#

星野：e2P を取って戻るのがうまい。

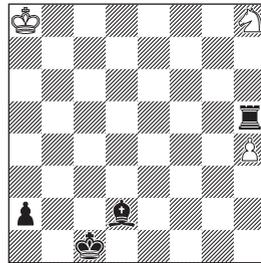
則内：Delicate Ss for self-interferences and switch-backs.

小林：詰上りはそれしかないのやさしいハズだが...

○一見詰みそうにありませんが、Sを使ってアンピンしながら白のR、Bを世に出していきます。Sのアンピン、Switchbackのコントラストが見事。

MY：Gate opening of wR and wB, unpin and interesting switchback of S. A fine work by our regular contributor.

**H1018** Ryo Shiomi  
C+ (塩見亮)



H#5 (3+4)

b) -bRh5 -wSh8

a) 1.Rc5 h5 2.a1=B h6 3.Bxh8 h7 4.Ba1 h8=Q 5.Rc2 Qxa1#

b) 1.Ba5 h5 2.a1=R h6 3.Ra2 h7 4.Rc2 h8=Q 5.Bd2 Qa1#

星野：RとSが無くても詰むとはビックリ。

則内：BのSwitch-backがどちらも痛快です。

水野：同じメイト形ですけど、Rが違うんですね。Bのスイッチバックもいいですね。

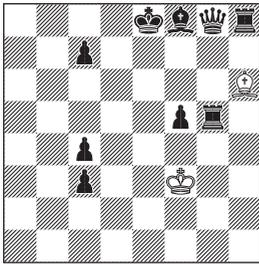
小林：何故かb)のほうが先に解けた。a)は

初手 Rf5 か Bf5 かと悩んだ。

○塩見さんの初 H#n。初形から R と S を除いた b) でも白の手順は同じ、というところがとても面白いです。B と R への成り分けや、違うピースの Switchback、B や Q の最速移動も入って、手順としても鮮やかです。塩見さん、次回作も期待しています。

MY : Same white moves from different initial position, 3/4 AUW, Switchback of S and Corner-to-corner moves of wQ and bB. A fine work by a helpmate composer from Japan!

### H1019 Fadil Abdurahmanovic C+ (Bosnia Hercegovina)



H#6 (2+9)

1.Qg6 Bg7 2.Be7 Bxc3 3.0-0 Kf4 4.Rf7 Ke5 5.Kg7 Kd4 6.Kf6 Kd5#

星野 : c 筋の 3 枚の P が、非常に良く働いている。

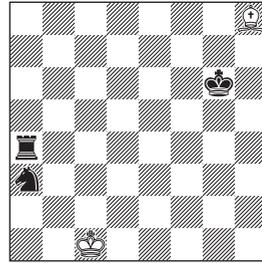
則内 : I investigated many cases until I noticed 0-0.

小林 : キャスリングに気づくまで時間がかかった。妙作。

○非常に気づきにくいキャスリング。白 K のテンポも入って最後はロイヤルバッテリーのメイト。さすがの作品。

MY : Indian + very unexpected castling with tempo and royal battery. Another enjoyable work by a top composer.

### H1020 Stefan Milewski C+ (Poland)



H#7 (2+3)

1.Kf5 Kb2 2.Ke4 Kb3 3.Kd3 Kxa4 4.Kc2 Bb2 5.Kb1 Bc1 6.Ka1 Kb3 7.Sb1 Bb2#

星野 : a4R も消えて、きれいに詰み上がる。則内 : Inevitable black, and adaptive white.

小林 : これはサービス問題。一気に解けた。爽快！！

○メイト形が見えると一気かもしれません。白の最初と最後の手が同じマス目という Kozhakin theme にもなっています。あとは K と B の Switchback。

MY : Kozhakin theme and Switchback of K and B. A pleasant tanagra.

○総評など

小林 : 7 月はイベントもあって、しかも暑くて解くのはこの位で ...。手数短いのに手強いが多く、苦戦しました。

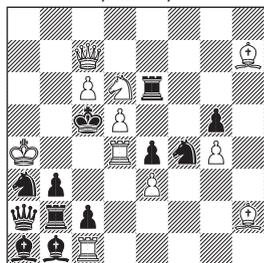
○とはおっしゃるもののパーフェクトでした。さすがでした。

渡邊 : 今回は 2 手しか解けず、全く駄目でした。地震・大雨・猛暑と続いたせいもあります。解けた感想は、H1003、H1004、H1008 は好印象でした。次回も参加したいです。

○ご参加頂きありがとうございます。無理のない範囲で楽しんで頂ければと思います。

○また次号にお会いしましょう。

**S234** Aleksandr Pankratiev  
C+ (Russia)



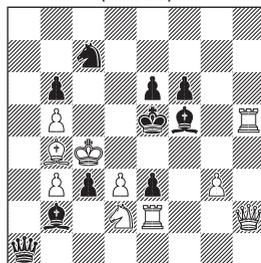
S#2 (11+12)

**S235** Atsuo Hara  
C+ (Japan)



S#3 (7+12)

**S236** Aleksandr Pankratiev  
C+ (Russia)



S#3 (10+10)

## Selfmate

### Selfmate Editor

Kohey Yamada (山田康平)

### Judge 2018-2020

Diyan Kostadinov (Bulgaria)

☆今回は3作で長手数なしですので、ノーヒント。

☆S#3の2作は、いずれもテーマが見事に表現された力作です。

1.Qa7! (waiting)

1... S~/Se5/Sd6 2.QxS/PxS/Qe7 Ra1#

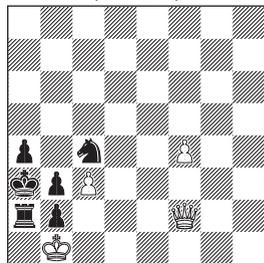
星野：Sのピンが1個入って、アクセントになっている。

水野：Sを取らなければならないと思ったので、Sをピンする手順にすぐ気がつきませんでした。

☆採点はラインを3通り（Qで取るのとPで取るのと、ピンするのと）として各1.5点（完全解答は5点）としました。

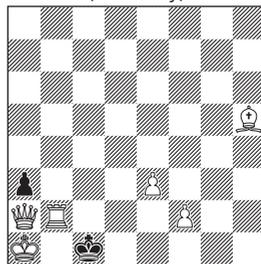
### Issue 82 (S229-231)

**S229** Kankuh Kobayashi  
C+ (小林看空)



S#2 (4+6)

**S230** Mirko Degenkolbe  
C+ (Germany)



S#9 (6+2)

set:1...axb2+ 2.Qxb2#!

1.Re2! (waiting)

1... Kd1 2.Bg6 Kc1 3.Lb1 Kd1 4.e4 Kc1

5.Re3 Kd1 6.Qd5+ Kc1 7.Ba2 Kc2 8.Rb3  
Kc1 9.Rb2 axb2#

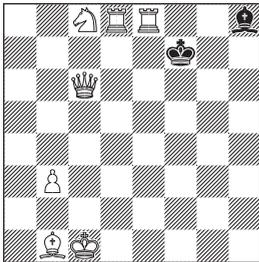
☆ R のルントラフ (b2 → e2 → e3 →  
b3 → b2 と 1 周して元の位置に戻る) がテー  
マ。setplay が粋。

☆ 2.Bf7? では Q が邪魔になってしまうので、  
いったん g6 から b1 に押し込めます。

星野：R と Q を横で組み替えようとしたら、  
縦の組み替えだった。

井上：黒は S しか動かせないので、それを  
封じるという狙いが明確。

**S231** Milimir Babic  
C+ (Serbia)



S#14 (7+2)  
b)Rd8→h1

- a) 1.Rf8+ Kg7 2.Kc2 Kh7 3.Kd2+ Kg7  
4.Kd3 Kh7 5.Ke3+ Kg7 6.Ke4 Kh7  
7.Kf4+ Kg7 8.Rf5 Kh7 9.Rh5+ Kg7  
10.Kg5 Kf7 11.Qc7+ Ke6 12.Qc4+ Ke5  
13.Kh6+ Kf6 14.Bh7 Bg7#
- b) 1.Qd7+ Kf6 2.Re6+ Kg5 3.Rg6+ Kf4  
4.Qf5+ Ke3 5.Re1+ Kd4 6.Rg4+ Kc3  
7.Rc4+ Kxb3 8.Qd3+ Bc3 9.Sb6 Ka3  
10.Ra4+ Kb3 11.Qb5+ Bb4 12.Rd1 Kc3  
13.Ra3+ Bxa3+ 14.Qb2+ Bxb2#

作者：In one twin, white go on a visit to  
black, and in second twin, black come to  
visit white.

☆ a) では白 K が黒 B により詰まされる位置

に移動します。b) では逆に白 K は不動で、  
黒 B が白 K を詰める位置に移動します。

☆ これだけの手順が、同一手数で、これだけ  
効率的な配置で成立している、という奇跡的  
な作品に思えます。

☆ どちらの解も正解者なしでした。残念です。

## 2019 年度海外誌 購読斡旋について

2019 年度の海外誌購読を下記のとおり斡  
旋いたします。為替レートの関係で、去年よ  
り少しお安くなっています。

希望の雑誌名と料金（予価）を明記して、  
郵便振替にて **1 月 25 日（金）まで（厳守）**  
に JCPS へお申し込み下さい。

なお、新規および住所変更の方は、必ず氏  
名・住所にローマ字表記を付けて下さい。

### The Problemist（英語）

イギリスで発行されている最も老舗の専門  
誌。全分野。年 6 冊。

pdf 版（ダウンロード）配布と、従来同様  
の紙媒体配布の、2 種類があります。後者は、  
pdf のダウンロードも無料です。

pdf 版……800 円

冊子版……4000 円

### Phénix（フランス語）

全分野。年 8 冊ほど。6500 円。

### Die Schwalbe（ドイツ語）

これも老舗の専門誌。全分野。年 6 冊。  
5000 円。

### feenschach（ドイツ語）

フェアリー専門誌。年 4 冊。このところ、  
順調すぎるほどの勢いで発行されています。  
5600 円。

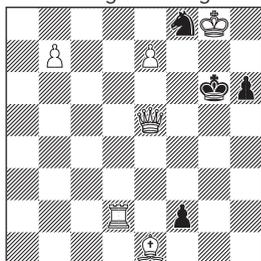
### Probleemblad（オランダ語）

全分野。年 4 冊。5000 円。

### StrateGems（英語）

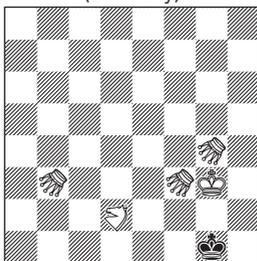
全分野。年 4 冊。5600 円。

**F930** Ayako OKAYA (Japan)  
C+ Mourning for A. Ogura



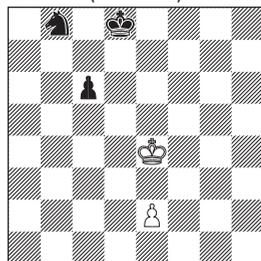
#2 (6+4)  
Transmuted Kings

**F931** Stephan Dietrich (Germany)  
C+



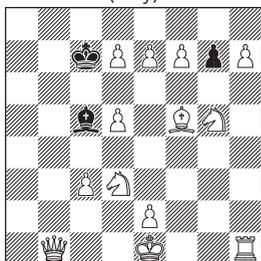
#7 (5+1)  
Double Grasshopper b3 f3 g4  
Saltador d2

**F932** Paul Răican (Romania)  
C+



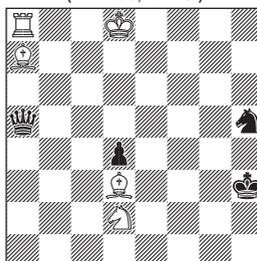
S#13 b)Sb8→h8 (2+3)  
Glasgow  
Vertical Mirror Circe  
Black Checks

**F933** Daniele Gatti (Italy)  
C+



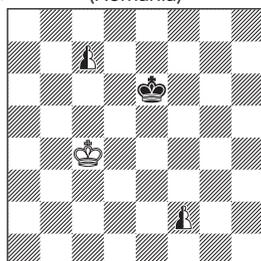
Semi-R#8 (13+3)

**F934** Jacques Rotenberg (France, Israel)  
C+



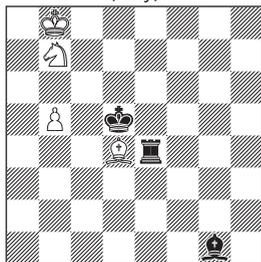
H#2 2 Sols (5+4)  
Gravitation

**F935** Eric Huber (Romania)  
C+



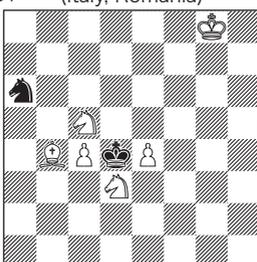
H#2.5 2 Sols (1+1+2)  
Neutral Pawns c7 f2  
Leffie

**F936** Vito Rallo (Italy)  
C+



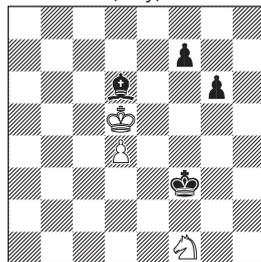
H#2.5 2 Sols (4+3)  
Take&Make

**F937** Vito Rallo Vlaicu Crișan (Italy, Romania)  
C+



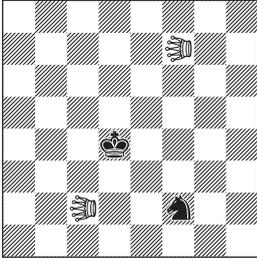
H#2.5 5 Sols (6+2)  
Circe Parrain

**F938** Vito Rallo (Italy)  
C+



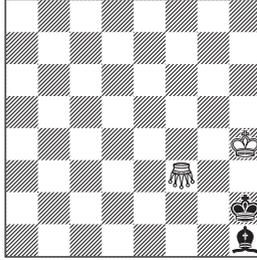
H#3.5 b) Bd6→h2 (3+4)  
Alphabetical Chess  
Annan

**F939** Sébastien Luce  
Jacques Rotenberg  
C+ (France, Israel)



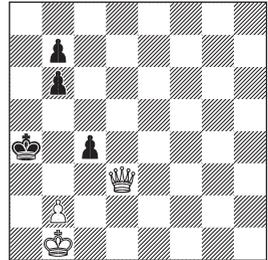
H#6 (set) (2+2)  
Locust c2 f7  
Antipodean Circe

**F940** Vito Rallo  
C+ (Italy)



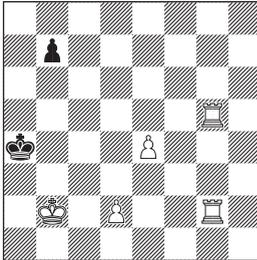
H#6.5 (2+2)  
Andernach Grasshopper f3

**F941** Slobodan Šaletić  
C+ (Serbia)



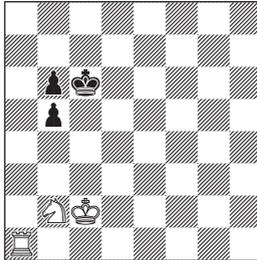
H=2 2 Sols (3+4)  
b) bBc4

**F942** Slobodan Šaletić  
C+ (Serbia)



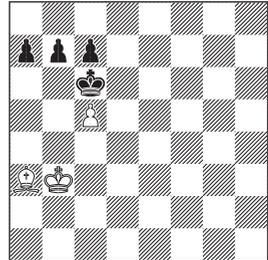
H=2 (set) (5+2)

**F943** Slobodan Šaletić  
C+ (Serbia)



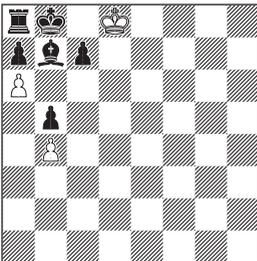
H=3 (3+3)  
b) wKb8

**F944** Slobodan Šaletić  
C+ (Serbia)



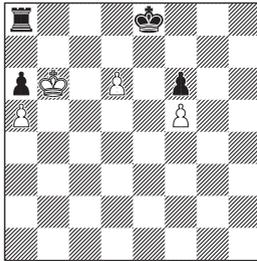
H=3 (3+4)  
b) bBc7 c) wRa3

**F945** Kankuh Kobayashi  
C+ After F921 (Japan)



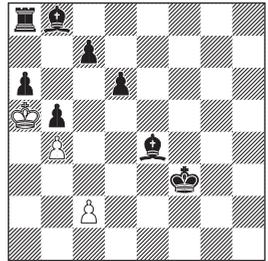
H=3 (3+6)  
b) +wPd7

**F946** Slobodan Šaletić  
C+ (Serbia)



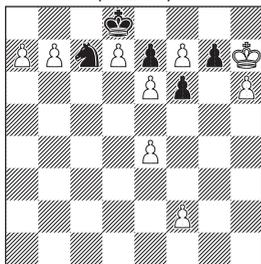
H=3 (4+4)  
b) Ra8→e6

**F947** Slobodan Šaletić  
C+ (Serbia)



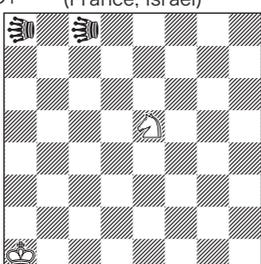
H=6 (3+8)

**F948** Sébastien Luce  
(France)



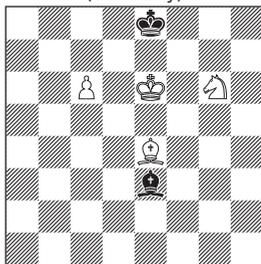
H==8 (9+5)  
Checkless Chess

**F949** Sébastien Luce  
Jacques Rotenberg  
(France, Israel)



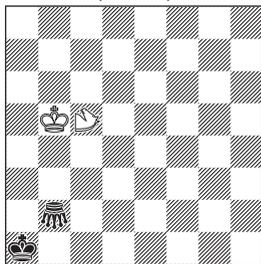
H==9.5 3 Sols (2+2)  
b) LOa8→h7  
Locust a8 c8  
Antipodean Circe

**F950** Andreas Thoma  
(Germany)



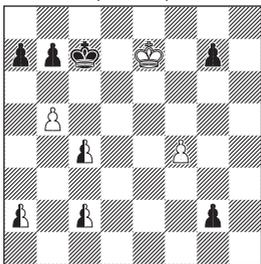
ser-H#5 (4+2)  
WandelSchach

**F951** Elgijusz Zimmer  
(Poland)



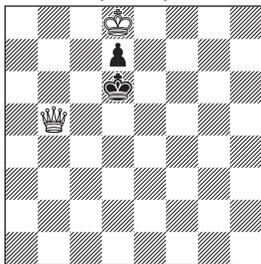
ser-H#13 (2+2)  
Grasshopper b2 Dragon c5

**F952** Sébastien Luce  
(France)



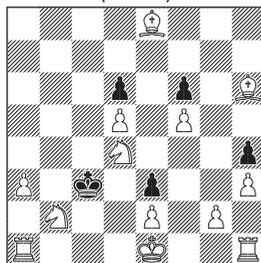
ser-H#15 (3+5+3)  
Neutral Pawn a2 c2 c4  
Alphabetical Chess

**F953** Miroslav Cvetković (+)  
(Serbia)



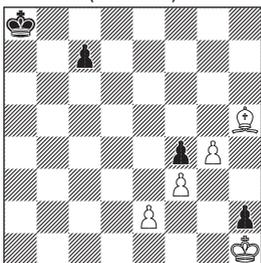
ser-H=12 (2+2)

**F954** Slobodan Šaletić  
(Serbia)



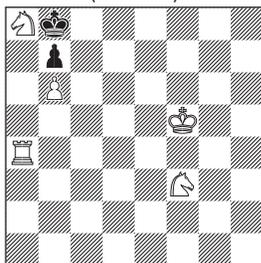
ser-H=13 (set) (13+5)

**F955** Ľuboš Kekely  
(Slovakia)



ser-HS#15 (5+4)  
Transmuted Kings

**F956** Ľuboš Kekely  
(Slovakia)



pser-H#24 (5+2)  
Camel f3  
Transmuted Kings

# Fairy

## Fairy Editor

Vlaicu Crisan (Romania)

## Judges 2018

Kevin Begley (USA)

We finish the year with an impressive number of 27 original compositions! Many thanks to the composers for their strong support of our fairy column! I hope you will continue submitting your works in our beloved chess problem magazine in 2019 as well.

We start with a typical AUW from our local contributor. **F930** is dedicated in the memory of Anne Ogura – our Problem Paradise member who died on 26th July. Stephan continues his exploration of Double Grasshoppers movements in **F931**. In order to mate, the black King must not evade and the white Saltador must be driven to g2. In **F932** Paul shows the requirements of Quartz 12th TT (<http://quartz.chessproblems.ca/pdf/45/Quartz45.pdf>). After several months of arduous checking, Daniele eventually managed to find **F933** – a sound setting for his task showing AUW, Valladao and Excelsior.

In the helpmates you will see again new fairy conditions shown for the first time. In **F934** we meet Gravitation: After its move, a piece (not a pawn, nor a king) slides down one square – white in direction of the 1st rank, black in direction of the 8th – if an adverse piece is on the arrival square before or after the sliding this piece is captured, so that there may be two captures in one move. The sliding is mandatory: if impossible, the move is impossible. For example, in the diagram the white king is not in check, and the pawn d4 cannot be captured, kings and

pawns move normally. Then, in **F935** we meet Leffie: Moves causing a Eiffel-like paralysis are illegal and this rule holds right up to the capture of the checked King. This neat Wenigsteiner also satisfies the requirements of Quartz 13th TT (<http://quartz.chessproblems.ca/pdf/46/Quartz46.pdf>). In **F936**, the same mating position can be obtained in two different ways. **F937** shows the imposed theme of Vito Rallo's 80 Jubilee Tournament: the piece captured in the last move gives mate thanks to a specific rebirth. Hint for solving **F938**: the wS must be placed under a white piece, while the bK must be placed over a black pawn. The next two problems are again Wenigsteiner. The final position in **F939** is LOf6, LOg2 – Ke5 Sa2, while in **F940** the Andernach Grasshopper jumps over all the pieces.

We continue with several solver-friendly helpstalemates, typical for Slobodan's style. One particular mention for Kankuh's return with **F945**, which shows our solvers are always willing to try their hands in composition after getting some inspiration. Solvers, I am always very glad to receive and publish your compositions! The last doublestalemates are quite hard to solve, so I will give you some additional hints. In **F948**, the four white promoted pieces are not captured and in the final position white has actually four possible moves which all give check not mating Black. The authors of the superbly constructed **F949** provide a "little" indication for the solvers: in A, the black King is stalemated on d3, e5, c3, while in B on c4, c5, d4!

Serial play is strongly represented. Guess what piece will become bBe3 in the final position of **F950**? In **F951**, Eligiusz tames the Dragon, which is actually the combination of wS and wP. Sébastien finds a surprising way to show an AUW in **F952**. **F953** features another original



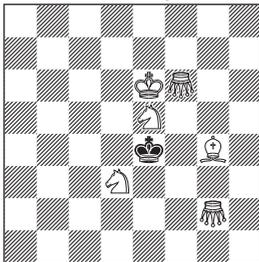
2.DGc3 [3.h3#] 2...CGc5 3.DGd3  
[4.Sf6#]3...RHd5 4.h3#

Authors: Logical 4-mover with Dresdner  
Theme Tournament.

Editor: Nobody could solve this.

Crisan: The new German logical school  
requires the initial presence of a main  
plan refuted by Black. After the execution  
of a foreplan, the Black's defense gets  
negated, allowing the successful execution  
of the main plan. In F895 we have the  
Dresden theme: the move of wDGc8  
changes the good black defense (RHd8)  
to an inadequate black defense (RHd5).

**F896** Stephan Dietrich  
C+ (Germany)



#5 (6+1)  
Double Grasshopper f6 g2

1.DGg3!

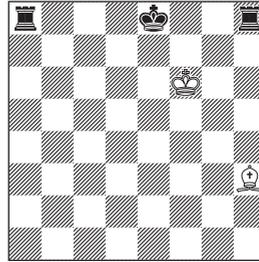
1...Ke3 2.Bf3 Kd4 3.DGfc5 Ke3 4.Kd5 Kd2  
5.Kc4#

1...Kd4 2.Bf3 Ke3 3.DGff4 Kd4 4.Kf5+ Ke3  
5.Bg4#

Editor: Nobody could solve this.

Crisan: Rex Solus hunting compositions  
generally require precise calculation. The  
first move takes the distant flight d2, while  
the second takes c3. Afterwards one must  
fine the final mates, which are not easy to  
discover.

**F897** Andreas Thoma  
C+ (Germany)



H#2 (2+3)  
WandelSchach

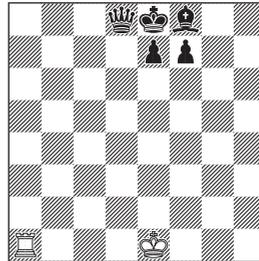
1.Ra1=wR Rh1=wR 2.0-0(bBf8) Be6#

Sunouchi: Because 0-0 is more powerless  
than 0-0-0.

Inoue: Initial position suggests castling.

Crisan: Lovely didactic problem to explain  
what is WandelSchach.

**F898** Andreas Thoma  
C+ (Germany)



H#2 (2+5)  
WandelSchach

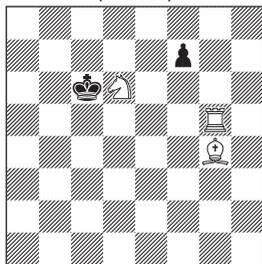
1.Qd3 Rd1=Q 2.Qf1=wB Bb5#

Sunouchi: Derivative B is suitable for the  
rule.

Inoue: Changing bQ into wB.

Crisan: All pieces are on their homebase  
squares – a visually appealing feature!

**F899** Pierre Tritten  
C+ (France)



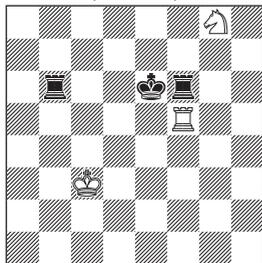
H#2 2 Sols (3+2)  
AntiTake&Make

- 1.f5 Sc4 2.fxg4[+wBc8] Rc5#  
1.f6 Se8 2.fxg5[+wRb5] Bd7#

Author: Black Pawn helps white officers reach squares allowing white linear mating pictures. Pseudo-Zilahi.

Sunouchi: White pieces gather close to K.  
Inoue: Single and double step of bP. K cannot capture a piece in this condition.  
Crisan: Beautiful ideal mates in diagonal-orthogonal correspondence.

**F900** Ľuboš Kekely  
C+ (Slovakia)



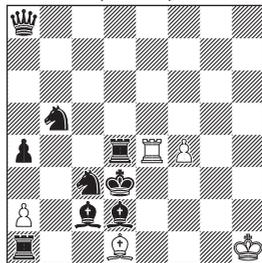
H#2 2 Sols (3+3)  
Transmuted Kings

- 1.Kd6 Se7 2.Re6 Rd5#  
1.Rg6 Rf7 2.Rd6 Re7#

Author: Miniature. Model mates.  
Sunouchi: Both Rs entertain K who becomes R.  
Inoue: Nice echo by simple diagram.

Crisan: Crystal clear presentation of Transmuted Kings!

**F901** Stefan Parzuch  
C+ (Poland)

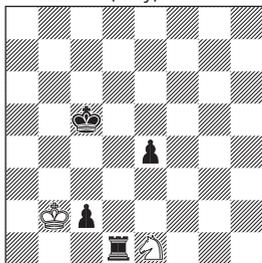


H#2 Andernach (5+9)  
b) Sb5→d6

- a) 1.Bb1 a3 2.Sxa3=wS Bc2#  
b) 1.Rd5 f5 2.Sxf5=wS Rd4#

Sunouchi: Black B&R mainly contribute the themes.  
Inoue: Good contrast of the two solutions. Fairy mates.  
Crisan: Also unpins, active sacrifices and delayed Follow-My-Leader.

**F902** Vito Rallo  
C+ (Italy)



H#2.5 Masand (2+4)  
b/c) bK→d4/c4

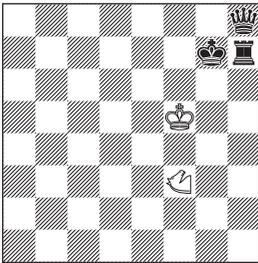
- a) 1...Ka3 2.c1=Q[d1=wR]+Sd3[c1=wQ]+3.Kd4 Qc5#  
b) 1...Sd3 2.c1=Q[d1=wR]+Kb3 3.Qc3[d3=bS]+Rxd3[c3=wQ]#  
c) 1...Ka2 2.c1=Q Sf3 3.Qb1[d1=wR][e4=wP]+ Rc1[b1=wQ]#

Author: Kozhakin, cross checks, Follow-My-Leader, double check, white battery.

Editor: Only Junichi could solve a).

Crisan: Masand is a difficult condition both for solvers and composers, due to the dynamic change of colours. I admire a lot the very different final positions.

**F903** Eligiusz Zimmer  
C+ (Poland)



H#3 2 Sols (2+3)  
Zebra f3

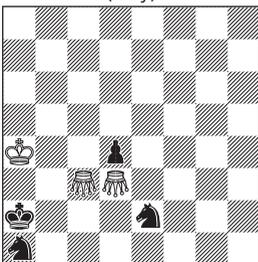
- 1.Kg8 Kg5 2.Rf7 Kg6 3.Rf8 Zd6#
- 1.Qe8 Zc1 2.Kh6 Kf6 3.Qh5 Ze4#

Sunouchi: Find out squares for Zebra to leap.

Inoue: Finding out the mating position is the first thing to do.

Crisan: Exactly: the best way to solve this kind of problems is to start backwards.

**F904** Vito Rallo  
(Italy)



H#3 2 Sols (3+4)  
Andernach Grasshopper c3 d3

- 1.Sc2 Ge3 2.Ka1 Kb3 3.Sxe3=w Sc2#

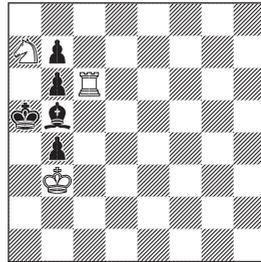
- 1.Sf4 Gd5 2.Sxd5=w Ge5 3.d3 Sc3#

Author: Miniature. Model mates.

Sunouchi: Sc2# is harder to find than Sc3#

Crisan: Each bS captures a wG and then gives mate. Congratulations to Seiichiro, the only solver to find the solution.

**F905** Slobodan Šaletić  
C+ (Serbia)



H=2 (3+5)  
b) Bb5→a6

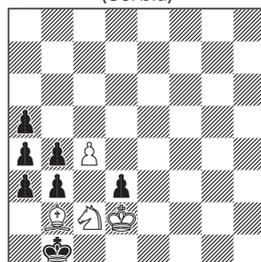
- a) 1.Ba6 Sc8 2.b5 Rb6=
- b) 1.b5 Rxa6+ 2.bxa6 Sc8=

Sunouchi: They would be alternatives to make set&key.

Inoue: Depriving B's flight and capturing B.

Crisan: All solvers managed to score points on this problem.

**F906** Slobodan Šaletić  
C+ (Serbia)



H=3 (4+7)  
b) wRc2

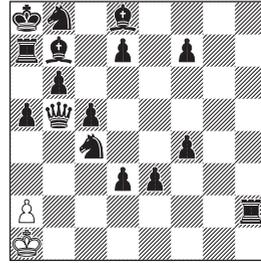


1. b2=nR 2. nRb6 3. Kb2 4. nRg6  
 5. fxg6(+nRh1) 6. nRh2 7. Ka1 8. nRb2  
 g7=nQ#

Editor: Nobody could solve this.

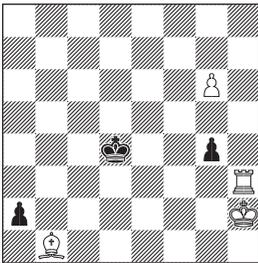
Crisan: After the key, White could mate immediately if the neutral Pawn f4 was placed on g6. Thanks to a neat manoeuvre involving the bK, the nR and the fairy conditions, the desired position is reached 7 moves later. A subtle Wenigsteiner!

**F911** Milomir Babić  
 C+ (Serbia)



Ser=44 (2+16)

**F910** Paul Răican  
 (Romania)



SH=21 (4+3)  
 Vertical Mirror Circe

1. gxh3(Ra1) 2. Kc3 3. Kb2 4. Kxa1(Rh1)  
 5. Kxb1(Bc1) 6. Kc2 7. Kd3 8. Ke4 9. Kf5  
 10. Kxg6(Pb2) 11. Kf5 12. Ke4 13. Kd3  
 14. Kc2 15. Kxc1(Bf1) 16. Kxb2(Pg2)  
 17. hxg2 18. Ka1 19. gxf1=B(Bc1) 20. Bd3  
 21. Bb1 Ba3=

Editor: Nobody could solve this.

Crisan: Not a surprise – this nut hard to crack has also beaten me! There are a lot of captures during the play for a miniature.

1. a4 2. axb5 3. Kb1 4. Kc1 5. Kd1 6. Ke1  
 7. Kf18. Kg1 9. Kxh2 10. Kh3 11. Kg4 12. Kxf4  
 13. Kg3 14. Kh2 15. Kg1 16. Kf1 17. Ke1  
 18. Kd1 19. Kc1 20. Kb1 21. Ka2 22. Kb3  
 23. Kxc4 24. Kxd3 25. Kxe3 26. Kf4 27. Kg4  
 28. Kh5 29. Kh6 30. Kg7 31. Kxf7 32. Ke8  
 33. Kxd8 34. Kc7 35. Kxb6 36. Kc7 37. b6  
 38. bxa7 39. axb8=S 40. Sxd7 41. Sxc5  
 42. Sxb7 43. Sxa5 44. Sc6=

Author: My new attempt to make as longer possible solution with white P minimal, S promotion, and capture of all black pieces.

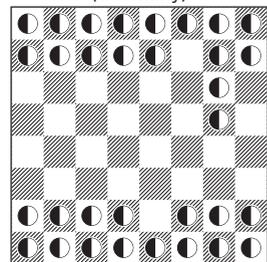
Sunouchi: After K has wandered a labyrinth, S cleans up.

Inoue: Elimination of all black pieces by wK and promoted wS. 9 moves longer than F868.

Crisan: Is anyone able to beat this record?

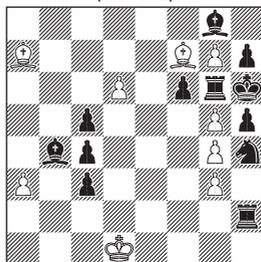
Congratulations to Seiichiro and Junichi for their impressive solving performances and encouragements to Katsuhisa and Kankuh for their participation. Thanks to your support and comments, I hope our beloved fairy column will continue to grow and attract new composers.

**R250** Arnold Beine  
C+ (Germany)



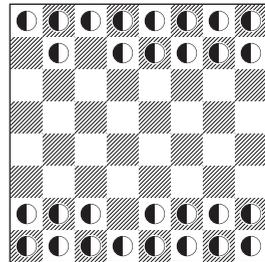
Proof Game 4.0 (0+0+32)  
32 undefined pieces  
White mates in 1  
Annan Chess

**R251** Klaus Wenda  
(Austria)



-7 & #1 (9+12)  
Proca Retractor  
AntiCirce

**R252** Michael Schlosser  
C+ (Germany)



Proof Game 5.0 (0+0+29)  
29 undefined pieces  
White mates in 1

**R253** Hitoshi Yanami  
C+ 屋並 仁史



Proof Game 18.0 (12+16)

## Retro

### Retro Editor

**Naoki Matsuzaki (松崎直樹)**

**Judge 2017-2018**

**Nicolas Dupont (France)**

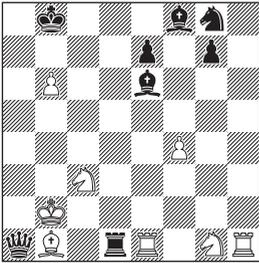
☆今回は4作です。R250は難しめです。安南ルールについて補足します。Pが1段目に移動する手は合法手です。禁手とするルールもありますが、検討ソフトのPopeyeやJacobiで合法手となっているためそちらに合わせています。1段目のPは動けませんが、

同じ筋の2段目の同色の駒を、ダブルステップも含めたPの動きにします。P以外の駒がダブルステップしてもアンパサンの対象にはなりません。本作にもPが1段目に動く手順があります。R251はbPc5が邪魔なので逆算させたいのですが、その方法が問題です。初手を二通りに絞り込むのは難しくありません。片方は不正解ですがその理由が判明するのは最後になってからなので、ひとまず進めてみてください。黒は抵抗を続けますが、同形三復ルールにより打開できます。なお、駒の配置が同じ局面でも、可能な着手が異なる場合には同一局面とはなりません。R252は詰みの形が予想できればすんなり解けると

思います。bKの動く余地があったかどうか、bPa7はどうなったのかを考えてみてください。R253はヒントなしで出題します。後半の2作は取り組みやすいと思いますので、普段敬遠している方も解いてみてください。

### Issue 82 (R240-245)

**R240** Arnold Beine  
Paul Răican  
(Germany / Romania)



Proof Game 29.0 (8+8)  
Annan Chess  
BlackUltraSchachZwang

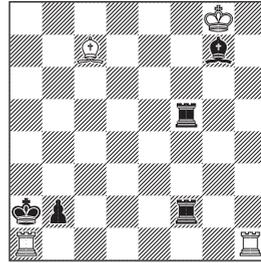
1. f2-b6 d7xd2+ 2. Kf2 c7-g3+ 3. Kxg3 Qc7+ 4. g2-f4 h7-h4+ 5. Kg2 h3+ 6. Ke3 dxc1=Q+ 7. Ke4 Q1xc2+ 8. Qxc2 Sc6+ 9. Qxc6+ bxc6+ 10. Kd3 Rh4+ 11. e3 c6-c1=S+ 12. Kd2 h3xe3+ 13. Kc2 Rxh2+ 14. Kxc1 Bh3+ 15. Kd1 0-0-0+ 16. Bd3 e2+ 17. Kc2 Kb8+ 18. Sc3 e1=S+ 19. Rxe1 f7-b3+ 20. Kb1 bxa2+ 21. Kc1 a1=Q+ 22. Bb1 Rd1+ 23. Kc2 Be6+ 24. Kb3 Qa4+ 25. Kxa4 Qc6+ 27. Ka3 Qa8+ 27. Kb3 a7-a1=S+ 28. b2xa1 Bb2+ 29. Kxb2 Qxa1+

黒の手がチェックに限定されるルールがあるとは、手数計算や論理で手順を絞り込む余地がほとんどないため難しい。局面を見て分かるのは最後の手はQであること(成ったかどうかは不明)、bK, bRの配置から黒はキャスリングした可能性が高いこと、初形

の駒は動いていないことなどである。作意ではbPが計5回成る。うち3つはSに成って動かずに取られ、残りはQに成って動いてから取られる。

Author: sss Schnoebelen, qq Ceriani-Frolkin.

**R241** Klaus Wenda  
Vlaicu Crisan  
(Austria / Romania)



-2 & s#1 (4+5)  
Proca Retractor  
AntiCirce Cheylan

-1. Kf8-g8!  
-1...Bf6-g7+ -2. Rb8xSd8(Ra1) & 1. Ra1+ bxa1=R(Rh8)#  
-1...Bh8-g7+ -2. Bb8-c7 & 1. Rh3+ bxa1=Q(Qd8)#

初手 Kf8 として e8 に利かせると応手は 2 通りあるが、いずれも b3 に逃げられないようにして wRa1 でチェックすれば、黒は P で取るしかなくなる。これで白が詰む形になるように、8 段目の黒マス 4 つのうち 3 つを塞いで黒の成駒の種類を限定する。

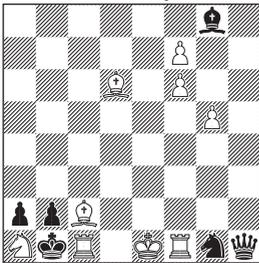
井上：ヒントから S#1 の手順が想定できる。ほかに 8 列目の黒マスを ふさぐ方法はなさそうだが、黒に -1...Bf6-g7 とされるとダメか？

☆ uncapture で同時に 2 つのマスを塞ぐのは盲点だったかもしれません。

Author: Black mates by a capturing promotion - the set theme of 2nd Retroblog TT doubled. The theme is combined with the occupation of 3/4 possible rebirth squares.

☆作者コメント中の TT は Thomas Brand 氏のブログ "Rund um die Retroanalyse" の Retroblog-Thematurier のことで、結果は pdf で公開されています。

**R242** Andreas Thoma (Germany)



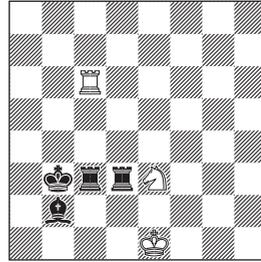
-2 & s#1 (9+6)  
 Proca Retractor  
 AntiCirce Cheylan  
 4 sols.

- 1. Kd8xRc8(Ke1) Rc ~ -c8+ -2. Re1-c1 & 1. fxg8=Q(Qd1)+ Kxc2(Ke8)#
- 1. Kh3xSg4(Ke1) Sh2-g4+ -2. g5-g4 & 1. Rf4+ Sf1#
- 1. Ke8xQf8(Ke1) Qg7/h6-f8+ -2. Bg6-c2 & 1. Rfe1+ Qxg6(Qd8)#
- 1. Ke1xPd2(Ke1) d3-d2+ -2. Kb6xRa5(Ke1) & 1. Rfe1+ dxc2(Pc7)#

初形位置の wK で黒駒を逆算できるため、初手の候補が多い。wRf1 を動かして wBc2 でチェックすることは予想できたかもしれないが、具体的な手順を見つけるのは難しかったと思う。1 手目の手順では、黒駒が c7 に利くように Q ではなく R を逆算する。2 手目の手順で -1 手目に Qh1 が動いたとする

と 2 つの wR によるチェックを戻せなくなるので、bS が動いたと限定できる。3 目と 4 目目の手順では wK が駒を取れないように wR で e1 を塞ぐ。

**R243** Andreas Thoma (Germany)

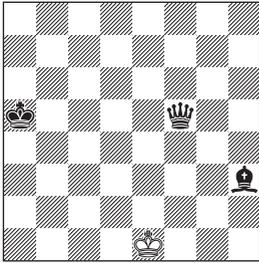


-7 & #1 (3+4)  
 Proca Retractor  
 AntiCirce Cheylan

- 1. Ke1xRd1(Ke1) Rd2-d1+ -2. Kf2xBg2(Ke1) Rd1-d2+ -3. Ke1-f2 Rd2-d1+ -4. Ke6xBd7(Ke1) Be8-d7+ -5. Kd6-e6 Bd5-g2+ -6. Kc5-d6 Bc4-d5+ -7. Ra6-c6 & 1. Kb4#

wR の配置から、Ke6xBd7 を戻して e8 を塞ぐと予想できる。その後 wK を左に逆算していき b4 で詰むよう、事前に bR のチェックを逆算できるようにしておく。bR の初形に黒駒を戻す有効な手順がないので、白マスの bB によるディスカヴァードチェックを活用する。

**R244** Andreas Thoma  
(Germany)

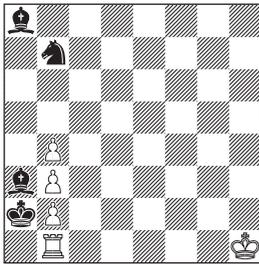


-9 & #1 (1+3)  
Proca Retractor  
AntiCirce Cheylan

- 1. Ke1xPd2(Ke1) d3-d2+ -2. Ke2xPd2(Ke1) d4-d3+ -3. Ke1-e2 d3-d2+ 4. Ke1xRd1(Ke1) Rd2-d1+ -5. Ke3xSf4(Ke1) d5-d4+ -6. Kf2-e3 Rd1-d2+ -7. Ke1-f2 Rd2-d1+ -8. Kd7xSe8(Ke1) Se6-f4+ -9. Kc6-d7 & 1. Kb5#

wK 単騎なので e8 を黒駒で塞いで wkB5 で詰ますしかない。そのためには予め bQ の利きを遮っておく必要がある。序盤の d 筋の P と R を使った手順はこれまでも何度か出てきたもの。bSf4 を逆算することで wKd7 へのチェックを戻す手が可能となる。e8 の駒は d7 にも e1 にも利かない駒ということで S となる。

**R245** Andreas Thoma  
(Germany)



-7 & #1 (5+4)  
Proca Retractor  
AntiCirce Cheylan

- 1. Kg2-h1 Ka1-a2 -2. Kf3-g2 Ka2-a1 -3. Ke4-f3 Ka1-a2 -4. Kd5-e4 Ka2-a1 -5. Kd6-d5 S~-b7+ (-5. Kc5-d5? Sd6-b7! -6. Kc6-c5 Sc8-d6!) -6. Kc6-d6 Sb7-...+ -7. Kd7-c6 & 1. Ra1#

wK が h1-a8 の対角線上にある限り、黒は bK しか逆算できない形になっている。wKd7 で bK の逃げ道を塞いで wRa1 で詰ますのだが、bK の位置との関係でテンポをずらさなければならず、wK が一度対角線を外れることになる。bSd6-c8 とされないように、-5 手目に wKd6 とする。

井上：黒の手が制限されているので難しくはなかった。5 手目は Kc5 としても同じようだが、Sd6 とされて 6 手目に Sc8 の受けが生じ、最後に Bh1 とされて失敗する。

『チェス・プロブレム入門』  
刊行のお知らせ

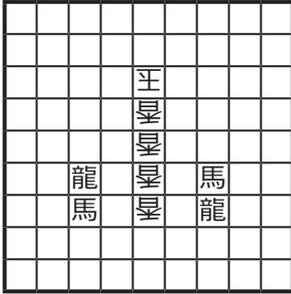


かねてからの課題だった、『チェス・プロブレム入門』ができあがりました。執筆は高坂研、小林敏樹、橋本哲、吉岡真紀、若島正の5名です。128 ページ。価格は未定。

年明けには twitter に広告を出しますが、プロバラでは 85 号（3 月刊行予定）になります。それまで楽しみにお待ちください。

U252 DEGUCHI Nobuo

出口信男

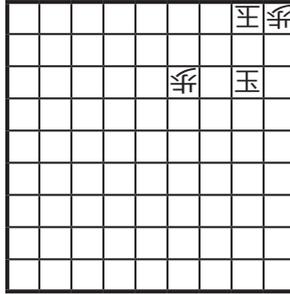


▲ なし

打ち放題詰

U253 KOSAKA Ken

高坂 研



▲ 銀

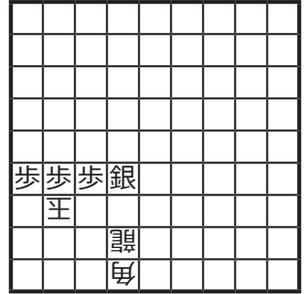
協力詰 5手

透明駒 1+2

b) 43歩→31歩

U254 SATOH Ichiro

佐藤一郎

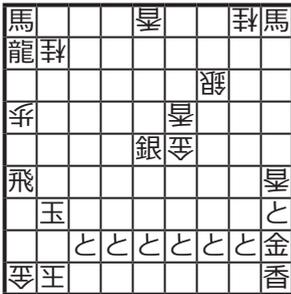


▲ 桂

キルケ協力詰 17手

U255 DEGUCHI Nobuo

出口信男



▲ 歩 8

打ち尽くし詰

## Shogi

Shogi Editor

AIBA Takehiro (會場健大)

Judge 2018-2020

SUDO Daisuke (須藤大輔)

【打ち放題】

持駒は1手につき何枚でも好きな数だけ打つ

ことができる。ただし、歩を打った瞬間に玉が詰んでしまった場合は、その歩で直接王手をかけていなくても打歩詰とみなされる。

【打ち尽くし】

駒を打つときは、自分の持駒全部を一手で残さず打ち尽くしてしまわなければならない。歩を打った瞬間に玉が詰んでしまった場合は、その歩で直接王手をかけていなくても打歩詰とみなされる。





# Problem Paradise

## Informal Tourney Award

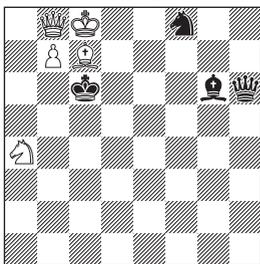
### Studies 2016-17 (corrected)

Judge: Ilham Aliev

83号で発表した2016-2017の入賞作について、不完全作であることが判明しましたので、お詫び申し上げるとともに、修正図とその作意を掲載します。ジャッジによる授賞については、変更ありません。

The prize study of 2016-2017 tourney was found to be cooked as below. I apologize for the cook and publish corrected version of the study. The prize is still awarded to the corrected version.

Steffen Slumstrup Nielsen  
**E068** Martin Minski  
Problem Paradise 2016-17 Prize



Win (5+4)

(Composers' intention)

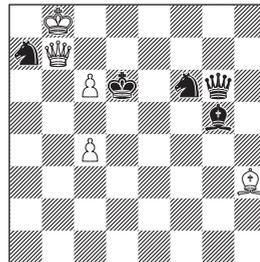
1. Qa7! Bf5+ 2. Kb8 Sd7+ 3. Ka8 Qf8+  
4. b8Q Nxb8 5. Bd6!! Qxd6 6. Qb7#

5. Bd6!! の絶妙手の代わりに 5. Qb6+ と

し、5...Kd5 6. Qb3+ Ke4 7. Bxb8 あるいは 5...Kd7 6. Sc5+ Ke8 7. Kxb8 のいずれも手順は長いですがデータベースで確認済のメイトになるとのことです。

Instead of brilliant intended move 5. Bd6!!, **5. Qb6+** leads to mate after **5...Kd5 6. Qb3+ Ke4 7. Bxb8** or **5...Kd7 6. Sc5+ Ke8 7. Kxb8**, both of which are confirmed as mate with the tablebase.

Steffen Slumstrup Nielsen  
**E068v** Martin Minski  
(corrected version)



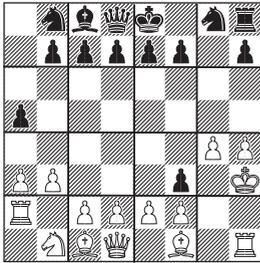
Win (5+5)

1. c7! (1. Qc7+? Kc5 2. Qxa7+ Kb4 3. c7 Bf4=) Sd7+! 2. Bxd7 Qg8+ 3. c8=Q (3. Kxa7? Be3+! 4. Ka6 Qxc4+=) Sxc8 4. Be6!! Qxe6 (4...Kxe6 5. Qd5+ Kf6 6. Qxg8, 4...Qg6 5. Bf7! Qf6 6. Qc7#) 5. Qc7# Win

---Hiroshi Manabe



(26) 若島 正  
Problem Paradise 2012 1-2 Pr



The shortest path of (15+14) wK?  
Grid Chess

Grid Chess とは、通常のチェスのルールに「双方とも、必ず盤上に引かれた太線 (= grid) を跨ぐ手を指さなくてはならない」という条件を加えたもの。分かり易く、レトロとの相性もなかなか良いルールだ。

本作は、白 K が初形位置から h3 に辿り着く迄の最短経路を求めよという問題。この配置だと、最初に Kd1 と指してもまた e1 に戻らざるを得ない。よって K の初手はキャスリングする他ない。では、実際に起こったのは 0-0-0 だろうか、それとも 0-0-0 だろうか。

もし 0-0 が可能ならば g1 から f1-g2-h3 と行けて早いのだが、これは不可能である。何故なら、黒 Pf3 は Pg4xf3 と動いているが、一方白 Pg4 はダブルステップしている。この 2 手を比べると黒の駒取りの方が先なので、白がキャスリングしたときには既に黒 P が f3 に居り、結局白 K は g2 を通過できないということになる。従って、白のキャスリングは 0-0-0 と決定する。

ここで白 Ra2 に着目しよう。このルールでは Ra1-a2 という手は禁手なので、この白 R は例えば a4 あたりから Ra4-a2 と入る必要がある。ということは、a3 と b3 の白は cross capture していなければならない。つまり、Pa2xb3 としてから R が a2 に入り、

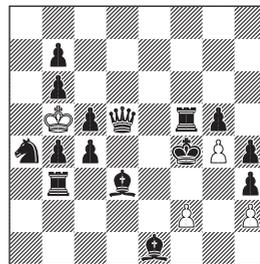
その後 Pb2xa3 と指したのだ。白の 0-0-0 はこの後なので、この白 R は元々 h1 に居たものであり、逆に Rh1 にいる白 R は元々 a1 にいたものだということが分かる。(白 R の sibling)

キャスリングの後の白 K の軌跡は c1-b2-c3-b4 となることが明らか。すると、白 K が b4 に到達してから Pa7-a5 が指されているので、白 P が b3 で取った黒 R は Q 側のものではなく K 側のものだったことも判明した。(黒 R の sibling)

solution : e1-c1(0-0-0)-b2-c3-b4-c4-d5-e5-f4-g3-h2-h3

b4 以降の K の軌跡については、特に説明の必要はないだろう。作者の言葉によると、創作のきっかけは左下の形で cross capture が証明できることを思いついたことなんだそうだ。それ自体は誰でも思いつきそうなものだが、そこからロジックを組み立て、双方 R の sibling を絡めて作品に仕立ててしまうところがスゴイ！

(27) Michel Caillaud  
Problem Paradise 1999 Comm



SHC#26 (4+15)

本作を鑑賞するには、まずルールをしっかり理解する必要がある。という訳で、まずは SHC の定義を確認しておくことにしよう。(既にご存知の方は読み飛ばしてください)

Series Help(SH#n)は「初形から黒の

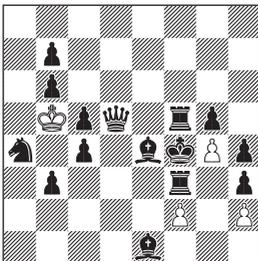
み (n-1) 手連続して着手し、それから H#1 として詰める」というものであり、Series Help Consequent(SHC#n) とは、SH#n に「連続着手中のそれぞれの局面を、全て独立したもので見做す」という一文を付け加えたものである。言い換えると「それ以前の着手についての情報が全くないものとして、それぞれの局面の合法性を判定せよ」となる（これにより、キャスリングが複数回可能になったり、或いは成 R とのキャスリングが可能となったりする）。

しかし、双方が交互に指している訳でない SHC における「局面の合法性」とは、一体何を意味するのか？

黒が連続して着手するという事は、黒番が続いていることになる。この「黒番であること」を常に正当化しようとする、連続着手中の任意の局面において直前の白の手を用意することが要求される。つまり、SHC における「不可能局面」とは、「その局面において、白の直前の着手が存在しないこと」を意味するのだ。この一点において、SHC はレトロの要素を孕むことになる。

ルール設定が分かったところで、早速作品分析に取り掛かることにしよう。

en passant capture が主題であることは配置から明らか。しかも、例えば以下の図のように、白の直前の着手が Pg2-g4 しかない局面を構成するのは簡単にできる。



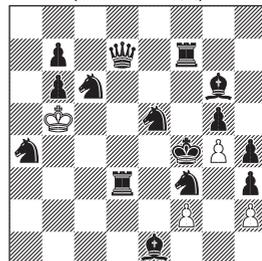
ところが、この局面で P×g3 e.p. としてしまうと、その瞬間白の直前の着手がなくなってしまい、illegal position になってしまおう！（前述の通り、Series Help では、局面の合法性を考慮して、黒の連続着手の間も常に直前の白の手を用意しておく必要があるのだ）

しかし、これを解決するのはなかなか難しい。というのは、構成すべき局面は  
 (1) 直前の白の手は Pg2-g4 しかないが、  
 (2) en passant capture した瞬間、別な直前の白の着手が発生する  
 という条件を満たさなくてはならないからだ。そんなことが果たして可能なのだろうか？

論理的に考えると、en passant capture の直後に g4(若しくは h4) が空くことを利用する以外に、(2) を可能にする手段はない。Pg4 を取られた後の仮想直前手として動かせる白駒は K しかないの、結局「en passant capture をした後だと、ある黒駒が g4(又は h4) に入ることができ、それによって直前の白の着手として白 K の手が可能になる」という局面を構成すれば良いことになる。その「ある黒駒」とは一体どれなのか？では、Caillaud の大構想をご覧あれ。

1.Rf7 2.Bg6 3.c3 4.c2 5.c1=S 6.Sd3  
 7.Se5 8.Sc6 9.Qd7 10.c4 11.c3 12.c2  
 13.c1=S 14.Sd3 15.Se5 16.Rd3 17.b3  
 18.b2 19.b1=S 20.Sd2 21.Sf3

(21.Sf3の局面)

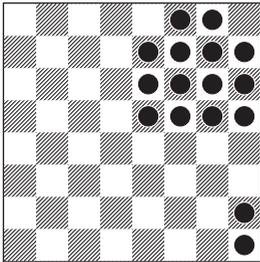


黒 Se5 がキーとなる駒。この黒 S が利いている 7 枳は全て埋まっているので、この局面の直前の白の着手は Pg2-g4 しかない。そして、Pxg3 e.p. とした瞬間、ダブルステップに代わる白の直前の手として Kc4-b5 という手が確かに生じている（更にその前の黒の手は Sg4-e5+ だ）。

22.hxg3 e.p.! 23.Bh5 24.Kg4 25.Kh4 26.Sg4 hxg3#

en passant capture の後も、慌てて Kg4?? とせずに、先に Bh5 としておくのが大事なところ。最後は Se5 を再活用して収束する。「初形で存在しない黒 S の制御」という独創的な方法で Series Help Consequent 特有のロジックを表現した傑作。ちなみに、本作は FIDE Album 1998-2000 にも収録されている。

(28) 橋本 哲  
Problem Paradise 2009



白Kを加えてから (0+16)  
白のみ連続して17手指し、  
黒をstalemateにせよ  
Variables 0+16

覆面駒 (Variable) とは「位置と色は分かっているが、何の駒なのかは不明」というもの。当然、出題図においてどの覆面駒が黒 K なのかも分からない。一体どこから手をつけていいのかと出題図を前にして途方に暮れそ

うになるが、まずは分かることから列挙しておこう。

取られた黒駒は 1 枚もなく、特に a-b 筋の黒 P は成っているので、この中に黒 P は最高でも 6 枚までしかない。また、白 K は黒 Q を初手で取るしかない。

更に配置をよく見てみると、白 K が上部の覆面駒を取りつくした後、15.Kg4 16.Kg3 17.Kf2 と進めば、h1 と h2 の覆面駒がそれぞれ K/P だと証明できることに気付く。つまり、作者の設定した問題は「白 K が 14 手連続して駒取りすることが可能な黒駒の配置は何か？」だ。

しばらく試行錯誤しているうちに、このパズルの規則が見えてくる筈。それは次のようなものだ。

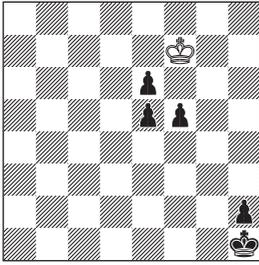
- (1) f5,g5,h5 のいずれかからスタートして、出題図の●に順に黒駒を追加していく。
- (2) ある黒駒を追加したら、次はその枳に隣接する枳に追加する。
- (3) 追加される黒駒は、まだ追加していない●地点へ利きを持ってはならない。(既に追加された黒駒への利きはあってもよい)

これらの条件を満たせば、白 K で取り尽くすことができることは明らか。では、実際にこのような配置を探してみることにしよう。

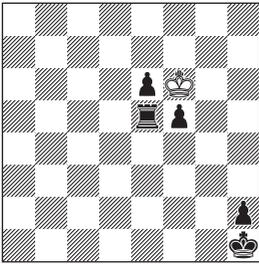
#### (A)14.Kxf5 の場合

f5 に追加できるのは黒 P しかなく、次は e5,e6,g5 のいずれかに黒 P を追加するよりない。

(A-1)Pe5 を追加すると、その次は Pe6 しかなく、ここで終了。

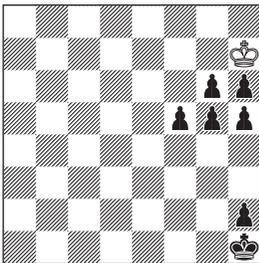


(A-2)Pe6 を追加すると、その次は Re5(又は Pe5) しかなく、ここで終了。

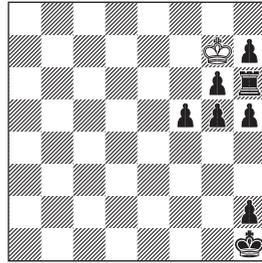


(A-3)Pg5 を追加すると、その次は Ph5/Ph6 の 2 通りあるが、

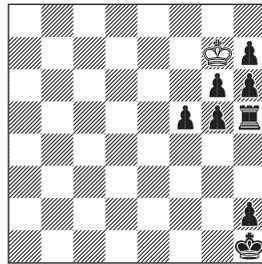
・ Ph5-Ph6-Pg6 で終了 (Ph5-Pg6-Ph6 も同じ)



・ Ph5-Pg6-Ph7-Rh6 で終了



・ Ph6-Rh5-Pg6-Ph7 で終了



と、いずれも逆算はすぐ行き詰まる。

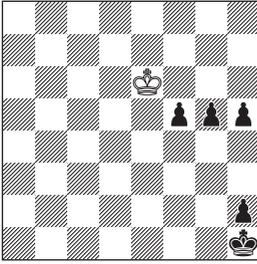
**(B)14.Kxg5 の場合**

対称性により、(A) と同様解がないことが分かる。

**(C)14.Kxh5 の場合**

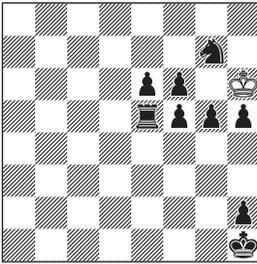
h5 に追加できるのも黒 P しかなく、次も g5 に黒 P を追加するよりない。更にその次は Pf5 と Ph6 の 2 択だが、Ph6 は (A-1) と同形でダメ。よって、ここも Pf5 しかない。

(C-1)



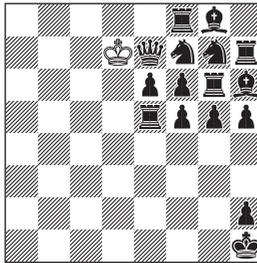
さて、ここから (A-2) と同様に Pe6-Re5 としてみよう。すると先程とは違って Pe6-Sg7 という逆算が可能になっている！

(C-2)



ここまでくれば、後は手なりで解けるだろう。正解は以下のような図である。

(正解図)



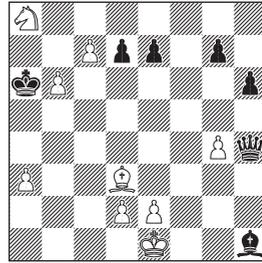
(solution) Add wKd7

- 1.Kxe7 2.Kxf8 3.Kxg8 4.Kxf7 5.Kxg6
- 6.Kxh7 7.Kxh6 8.Kxg7 9.Kxf6 10.Kxe5

- 11.Kxe6 12.Kxf5 13.Kxg5 14.Kxh5
- 15.Kg4 16.Kg3 17.Kf2=

覆面駒とレトロを組み合わせた、独創的なパズル。素晴らしいではないか！

(29) René J. Millour  
Rio 2009 Sake Sp. Pr



H#2 (9+7)  
Invisible 2+8

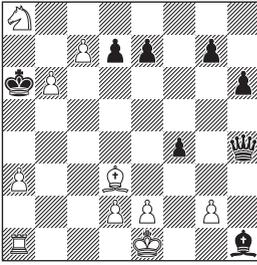
- 1.Ixg4 Kc1 2.Qa4 cxb8=5#

透明駒 (Invisible) とは「色は分かっているが、その位置も駒種も不明」というもの。その位置や駒種は、手順の合法性を考慮することによって判明させることになる。

(29) は、実に白黒合わせて 10 枚もの透明駒の正体がたったの 2.0 手で全て判明するという、信じ難い作品。以下、その論理構成を丹念に追ってみることにしよう。

まず、初形が黒番であることから f2 又は g3 に少なくとも 1 枚透明駒があることは明らか。ここから作意通り 1.Ixg4 Kc1 2.Qa4! と進めてみることにしよう。黒の 2 手目から初手の駒取りが en passant だったことが証明でき、また白の初手が castling であることから、白の透明駒のうち 1 枚は Ra1 であることが分かる。

ではここで、出題図の 0.5 手前の局面に遡ってみよう。

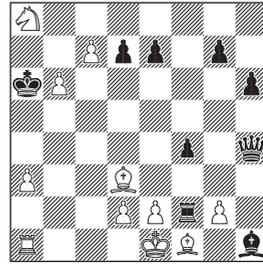


(小さくしたのは判明した透明駒)

するとここから、実に多くの情報を引き出すことができる。まず、白 Bd3, 黒 Bh1 はいずれも成駒である。この成駒を作るのに、黒は最低 5 枚白駒を取らなければならない。ところが現在盤上にある白駒は可視駒が 9 枚+透明駒 2 枚で合計 11 枚。即ち、黒駒の駒取りはこれで尽きている。しかし白 Bf1 は原型位置のまま黒 P に取られる筈はないので、これは今も存在している！つまり白の 2 枚目の透明駒は Bf1 である。



更に分析を続けよう。これで白の駒は全て判明したので Qh4 の利きを遮っていたのは黒の透明駒である。en passant が可能だったことからそれが存在するのは g3 ではなく f2 であり、尚且つ白の castling を妨げないとなると、これは R しかない。



今度は白 Bd3 について考えてみよう。現在盤上にある黒駒は可視駒が 7 枚+透明駒 8 枚で合計 15 枚。ということは、白は一枚しか駒取りすることができない。従って白の成 B は、f 筋の白 P が e8 又は g8 で駒取りをしてきたものである。ということは、黒 Bf8 は取られていないということになり、これで黒側の透明駒は 3 枚目まで判明した。



次に目を左側へ転じてみよう。前述の通り、既に黒の駒取りは尽きているので、a-b 筋の黒 P は駒取りをしていない。又、白もこれ以上の駒取りはできない。従って、これらの黒 P は正面の白 P とすれ違うことはできず、a 筋の黒 P は a5 か a7 に、そして b 筋の黒 P は b7 にいることが確定する。(2.Qa4 によって、a4 にはいないことが証明されている) これから Bc8 も判明し、更に Pa7 では Rf2 が illegal position になるので Pa5 も証明できた。更に、Bd3 の利きを止めるため

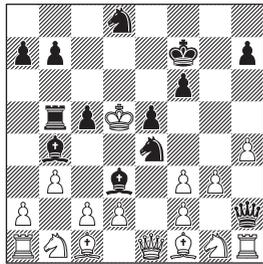
に Sb5 も必要。これでとうとう黒側の透明駒も 7 枚証明できた。



ここまでくれば、もう後は簡単だ。外出できないもう一枚の黒 R は白 P に取られたのだとすれば、残った黒駒は S1 枚のみ。これが b8 にいたということを 2...Pxb8=S# によって証明し、全ての透明駒が判明した。

多数の透明駒を自在に操り、これほどまでに重厚かつ綿密なロジックを組み立てた作者に、心から敬意を表したい。傑作！

(30) 高坂 研、橋本 哲  
Problem Paradise 2016 1st Pr



Proof Game 20.5 (16+13)

まずは手数計算をしてみよう。白には取られた駒はなく、黒のなくなった駒は RPP の 3 枚。盤面配置を作るのに白は最短で 9 手しかかからないが、黒は 17 手かかる (Bd3 は 2 手で行けそうに見えるが、実際には Se4 より先には動けない)。また、白が f3 で黒 R

を取ったのは明らかで、この黒 R は 3 手動いている。よって、もはや黒には 1 手の猶予もなく、d7 と g7 の黒 P はいずれも初形位置で取られていることになる。

特に黒 Pd7 がキーとなる駒で、これを取り除くことにより左上の黒 Q,R,B が動き出すことになる。具体的には、

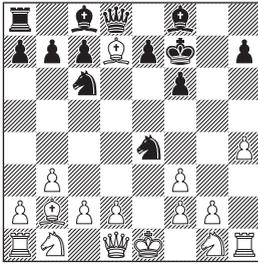
- (1)Sb8 を c6 へ
  - (2)Qd8 と Bc8 を移動
  - (3)Pe7-e5 としてから Bf8-b4
  - (4)Ra8 を b5 へ
  - (5)Sc6-d8 としてから Pc7-c5
- のような順になると予想される。

次に、白 K の軌跡を考えてみることにしよう。白にはまだ 12 手残されているとはいえ、2 枚の黒 P を取り除くにはある程度手数がかかるから、そんなに遠回りをする訳にもいかない。黒 Pc7-c5 の後でようやく白 Kd5 とできるのだから直前の位置は c4 しかなく、白 K の軌跡は d1-e2-d3-c4-d5 に確定する。

すると、ここで重要なことに気付く。この白 K の軌跡に干渉しない為には、黒 Bc8 は c8-e6-c4-d3 のようなコースを取ってはダメなのだ。唯一可能な軌跡は c8-h3-f1-d3 と大回りするものであり、このことから、白 Bf1 は少なくとも 4 手動いていることになる。この白 B が 4 手動く間に Pd7 を取って Switchback 或いは Rundlauf するのでは、と想像するのはそう難しくない筈。

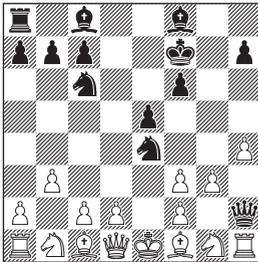
そうと分かれば、白はまず Pg7 を除去して Rh8 を f3 に運んでもらわなければならないから、序はほぼ絶対。

- 1.b3 Sf6 2.Bb2 Se4 3.Bxg7 Rg8 4.Bb2 Rg3 5.h4 Rf3 6.exf3 f6 7.**Bb5** Kf7 8.**Bxd7** Sc6



黒の8手目は Sc6 しかなく、これにより白 Bd7 は左の領域に避難することができなくなる。結局、h3 に退いてから Pg3 として初形位置に戻り、これで最初の Rundlauf が完了する。

9.**Bh3** Qd6 10.Bc1 Qh2 11.g3 e5 12.**Bf1**



これだけなら、さして驚くにはあたらない。作者の主張は、この後の手順にある。前述の通り、黒 Bc8 はこの後 h3-f1-d3 と動くのだが、白 Bf1 はその邪魔になっているのにお気付きだろうか。その為、この白 B は更にもう一周 Rundlauf することになるのだ！12 手目以降の手順は以下の通り。

12...Bh3 13.**Bb5** Rd8 14.Ke2 Rd5  
15.Qe1 Sd8 16.**Bd7** Rb5 17.Kd3 Bb4  
18..Kc4 c5 19.Kd5 Bf1 20.**Bh3** Bd3  
21.**Bf1**

テーマは勿論白 B の Rundlauf2 回転。これだけ軌道の大きなものは、恐らく前例がないと思う。

尚、このアイデアと構図は私が思いついたものだが、なかなか旨いかず橋本氏の手を借りることになった。氏には改めてここで感謝の意を表しておきたい。

#### 終わりに

これまで 5 回にわたり、様々なレトロプロブレムを紹介してきた。やや難易度高めの選題だったと思うが、どれもレトロ特有の局面分析とロジカルな推論を通じて、面白さが十分に感じられる作だったのではないかと自負している。丁寧に読んで頂ければ作者の意図がきちんと伝わるよう、解説もかなりしっかり書いた心算だ。この連載が、今までこの種の問題を素通りしていた読者の方がレトロに興味を持つきっかけになってくれたら、著者としてそれに勝る喜びはない。

レトロの世界は広く、まだ未開拓の部分も多い。それは、プロブレムの世界では完全な後発の日本人でも貢献できる場があることを意味する筈だ。いずれこの分野で、橋本氏に続く作家が現れることを願って、この拙い論考を終えたいと思う。

# Book Sale

ご注文は郵便振替で JCPS まで。\*印は在庫数を表します。現品限りのものについては、お手数ですが、まず若島までメールにて在庫の有無をお問い合わせください。送料は、特に断り書きのないものについては、すべて当方負担です。

## (A) Books

A-1\* FIDE ALBUM 1992-94 6200 円 新本

A-2\*\*\* FIDE ALBUM 2001-2003 7000 円 新本

A-3\*\*\* FIDE ALBUM 2004-2006 6500 円 新本

A-4\*\*\* FIDE ALBUM 2010-2012 7100 円 新本 ← **New!**

A-5\* FIDE ALBUM 1998-2000 Annexe 4600 円 新本

A-6\* René J. Millour, Subtleties on 64 Squares 7000 円

本誌でもおなじみ Millour さんの作品集。特にフェアリーとレトロのファンは必見。251 局。英語。

A-7\*\* Zdravko Maslar, Atelier 64 5200 円

約 40 年も続いている Andernach meeting の主宰者として知られる、Maslar さんの作品集。

ヘルプメイトを中心に 180 局。FEE=NIX シリーズ。ドイツ語。

A-8\*\*\* Hans Peter Rehm, Logik & Zweckreinheit im Märchenschach 5700 円← **New!**

いわゆる New German School の作品構造はどういうものかを、フェアリーのジャンル内で解説した評論。FEE=NIX シリーズ。ドイツ語 (一部に英訳の要約が付く)。

A-9\* Milan R. Vukcevic, My Chess Compositions 5700 円

Vukcevic の傑作集。収録作品数 295 局。英語。

A-10\*\* Milan Velimirovic, A Collection of Chess Problems by Touw Hian Bwee 3500 円

インドネシアの作家 Touw Hian Bwee の作品集。収録作品数 178 局。英語。

A-11\*\*\*\*\* Peter Gvodjak, Cyclone 3700 円

パターン・ブレイの cyclic テーマを網羅したもの。英語。

A-12\*\* Peter Gvodjak, Cyclone 2 5300 円

A-14 の続篇。

A-13\* ШАХМАТНАЯ КОМПОЗИЦИЯ 1977-1982 1000 円 花沢蔵書

ロシア作家作品集。ロシア語。

A-14\*\* В. А. МЕЛЬНИЧЕНКО, МАСТЕРА ШАХМАТНОЙ КОМПОЗИЦИИ 1000 円

花沢蔵書 ロシア作家作品集。ロシア語。

A-15\*\* BELFORT 1994 37. CONGRES DE LA FIDE 1000 円 花沢蔵書

1994 年世界大会記念冊子。フランス語。

A-16\* Winfried E.Kuhn et.al., Das Hans-Klüver-Gedenkturnier 1990-1993 500 円

花沢蔵書 H. Klüver 追悼冊子。ドイツ語。

A-17\* Günter Büsing & Hans Gruber, John Niemann -Eine Gedenkschrift- 500 円

花沢蔵書 J. Niemann 追悼冊子。ドイツ語。

A-18\* Wolfgang Dittmann, Der Flug der Schwalbe 1000 円 花沢蔵書  
専門誌 Die Schwalbe の歴史。ドイツ語。

(B) Paradise Books その他

B-1 上田吉一『極光 II』 1500 円

将棋盤使用のフェアリー作品集 100 局。在庫あり。

B-2 山田康平『うるていめいと』 2000 円

詰将棋 5 手詰作品集。200 局。在庫僅少。

B-3 『この詰将棋がすごい! 2012』 3500 円+送料 2 冊まで 360 円

在庫僅少。

B-4 『この詰将棋がすごい! 2015 詰将棋新世紀』 2500 円

在庫あり。

B-5 Yoshikazu Ueda, Aurora: A Collection of 100 Chess Problems 2000 円

在庫あり。英語。

B-6 Satoshi Hashimoto, 64 Proof Games 2000 円

在庫あり。英語+日本語。

B-7 若島 正『盤上のパラダイス』 1200 円

三一書房刊 (絶版)。詰将棋パラダイスを中心にした読み物。在庫あり。

B-8 WCCC 2012 ブックレット 1000 円

2012 年に神戸で行われた世界大会の記録をまとめた冊子。在庫あり。

B-9 WCCC 2012 記念 T シャツ 2000 円

M/L サイズ。在庫あり。

(C) Problem Paradise バックナンバー

No.8-11 各 1000 円

No.14- 現在まで 各 1000 円

## Definitions

### <一般的通則>

# : 最終目的がメイトであることを表示する。

= : 最終目的がスタイルメイトであることを表示する。

== : 最終目的が双方スタイルメイトであることを表示する。

+ : 最終目的がチェックであることを表示する。

v : 紛れ (try) を表す。個数は、テーマとなる紛れの数を表す。

\* : Set Play を表す。オーソドックスやセルフメイトの場合は黒から指し始め、ヘルプメイトの場合は白から指し始める。作意手数から 0.5 手を引いた手数になる。

sols : solutions すなわち「解」のこと。指定された数だけ解があり、これは余詰ではなく、作意設定のうちに入っている。

b) c) ... : 問題図を a) とし、指定のように配置を変えた図を b) c) ... として、いずれも a) と同じ条件で解くこと。

◆盤上にフェアリー駒がある場合、P はそのフェアリー駒にも成れる。

◆キャスリング可能な位置にある K と R は、それが不可能であるという証明ができないかぎりキャスリング可能とみなされる。逆にアンパッサン可能な位置にある P は、直前の手が取られる P が動いたものと証明ができない限りアンパッサン不可能とする。

### <問題設定>

**Direct** (記号無し) : #n では、白から指し始め、n 手で黒をメイトにする手順を求める。黒はそれに抵抗する。

**Help (H)** : H#n では、黒が白に協力し、n 手で黒をメイトにするような手順を求める。通常黒から指し始める。白から指し始める場合は、0.5 手分を引いた形で表記する。

**Helpself (HS)** : HS#n では、ヘルプで (n-1) 指して、そこから S#1 になるような手順を求める。通常白から指し始める。

**Parse Series-help (pser-H)** : Series-help で、黒が連続して指す手順中にチェックをかけることもでき、その場合は直後に白が 1 手指す、としたもの。

**Proca-Retractor -n&#1** : 白から戻し始めて、n 手以内で、白が黒を 1 手でメイトにできるような局面を作るのが目的。黒は抵抗する。なお、黒にも白と同様、逆算してから 1 手詰にする権利がある。これを Forward Defense という。

**Proof Game (PG)** : 実戦初形から始めて、指定された手数で問題図に至るような手順を求める。

**Reflex (R)** :  $R \neq n$  は、 $S \neq n$  に「自分の手番で、相手を 1 手でメイトにできるときは、必ずその手を指さねばならない」という条件を追加したもの。この追加条件は、白黒の双方に適用される。

**Self (S)** : S#n では、白から指し始め、白が自分を n 手でメイトにさせるよう黒に強制する手順を求める。

**Semi-reflex** : reflex の条件を黒のみに適用したもの。

**Series-Direct (Series)** : Series#n では、白が連続して n 手指し、黒をメイトにする手順を求める。白は最終手を除いて、黒にチェックをかけてはならない。

**Series-help (SH)** : 黒が連続して指定された手数を指し、それから白が 1 手でメイトなどの目的を達成できるような手順を求める。黒は最終手を除いて、白にチェックをかけてはならない。

**Series-help consequent (SHC)** : Series-help に次の条件を付加したもの。途中の局面すべてを独立したものと見なし、その局面でキャスリングやアンパッサンが合法でさえあれば、そのような着手も可とする。

Mauldon-Caillaud と呼ぶこともある。

**Series-helpself(SHS)** : 黒が連続して指定された手数を指し、それから白が HS#1 などの目的を達成できるような手順を求める。黒は最終手を除いて、白にチェックをかけてはならない。

**Series-self (SS)** : 白が連続して指定された手数を指し、それから黒が 1 手で白をメイト (あるいはステイルメイト) にするよう強制される手順を求める。白は最終手を除いて、黒にチェックをかけてはならない。

### <フェアリールール>

**Alphabetical Chess** : 盤面の柁目に a1, a2, … a8, b1, b2, … h8 という order が付いているとしたとき、すべての着手は、この order でいちばん a1 の近くにある柁目の自駒を動かさなくてはならない。

**Andernach** : K 以外の駒は、駒を取ると色が変わって相手の駒になる。新しく発生した R はキャスリング可能。

**Annan Chess** : 俗に言う「安南」ルール。縦の筋に同じ色の駒が重なっているとき、上の駒は下の駒の働きになる。ただし、1 段目に P が移動するのは禁手。3 段目の駒が P の働きをすることによるダブルステップはできない。3 段目の駒が P の働きをすることによるアンパサンは可。

**AntiCirce** : 駒を取るとき、取る駒 (K を含む) は初形位置に戻り、取られた駒は盤上から消える。取る駒の初形位置が何らかの駒 (取る駒も含む) によって占領されているときは、駒が取れない。細則は Circe に準じる。

**AntiCirce Cheylan** : 取る駒がその原形位置に着地するような取りは禁手とした Anticirce。

**AntipodeanCirce** : 取られた駒は取られた位置から ( $\pm 4$ ,  $\pm 4$ ) の地点に復活する。8 段目に発生した P は任意の駒に成れ、その選択は取りを行った側が決められる。1 段

目に発生した P は動けない。

**AntiTake&Make** : 駒を取ったとき、取られた駒は同時にそこから移動する手を指さなければならぬ。その移動は、取られた駒の動き。

**Argentinian Chess** : 駒を Argentinian Piece に置き換えたチェス。Q は Senora で置き換えられる。P は通常の駒ではなく、Argentinian Piece になる。

**Black Checks** : 黒はチェック以外の手を指せない。チェックする手がない場合はパスで、白は続けて指せる。

**Checkless Chess** : チェックメイトにできるときを除いて、双方ともチェックをかけてはならない。

**Circe** : K 以外の取られた駒は初形位置に再生する。R および S の初形位置は取られた場所の色によって決まる。P の初形位置は取られた筋の 2 段目。フェアリー駒の初形位置は取られた筋の 8 段目。取られた駒の初形位置が何らかの駒によって占領されているときはその駒は通常通り盤上から消える。初形位置に戻った R はキャスリング可能。初形位置に戻った P は 2 歩進むことが可能。

**Circe Parrain** : 地点 a で駒が取られたとき、取られた駒はその直後の指し手 (移動ベクトルを v とする) によって、地点 a+v に再生する。再生場所が盤の外だったり、そこが別の駒によって占領されている場合は、再生しない。直後の指し手がキャスリングの場合、その移動ベクトルは K と R それぞれの移動ベクトルを足す (つまり 0-0 は 0 ベクトル)。1 段目に再生した P は 1 マスしか前に進めない。8 段目に P が再生すると、その瞬間に成る。細則は Circe に準じる。

**Disguised King(s)** : 黒の駒 (K を含む) のどれか一つがロイヤル駒。ただし、その駒がどれかは問題図ではわからないとする。メイトなどの条件は、そのロイヤル駒 (disguised king あるいは DK と呼ぶ) に適用される。K

はロイヤルではないとき取ることができる。PはKに成れない。ロイヤルのPは、アンバサンで取られる可能性がある場合、ダブルステップできない。キャスリングは、KかRのどちらかがロイヤルであり、その通り道に敵の駒が利いている場合には不可能。以上の条件を白にも適用するとき、Disguised Kingsと表記する。

**Eiffel Chess** :  $P \rightarrow S \rightarrow B \rightarrow R \rightarrow Q \rightarrow P$  の順で、その駒によって取りをかけられていると動けなくなる。

**Glasgow Chess**: ボーンが2段目（7段目）で成らなければいけないとしたもの。

**Gravitation** : PとK以外の駒は、着手後に1段（白は下に、黒は上に）すべり落ちる。そこに相手の駒があれば取れる。すべり落ちることができないような着手は禁手。

**Leffie** : Eiffel の反対。Eiffel Chess における paralysis が起こるような着手は禁手。

**Madras** : 同種の駒によって取りをかけられている場合、その駒は動けない。

**Mars Circe** : 駒を取るとき、取る駒（Kを含む）はいったん初形位置に戻り、そこから駒取りを行う。取られた駒は盤上から消える。取る駒の初形位置が何らかの駒（取る駒も含む）によって占領されているときは、駒が取れない。細則は Circe に準じる。

**Masand** : チェック（開き王手を除く）をかけたとき、その駒の利きにある敵味方の駒は、Kを除いてすべて色が変わる。

**Promotions Circe** : Pが成った場合、その成駒は Circe の再生位置に移動する。そこが塞がっているときは、その駒に成れない。

**Take&Make** : 駒を取ったとき、その駒は同時にそこから移動する手を指さなければならない。その移動する手は、取られた駒の動きになる。

**Transmuted Kings** : チェックをかけられたKは、その瞬間にチェックをかけた駒の働きをするというルール。特に断らない限り、

このルールは双方のKに適用される。

**Vertical Millor Circe** : Circe Inverse と同じ。K以外の取られた駒は、d/e筋の境界線を軸にして、Circeで発生する位置と対称の位置に再生する。細則は Circe に準じる。

**WandelSchach** : 駒が1段目、2段目、7段目、8段目に入ると、その原形位置の駒および色になる。Kは変化しないが、何かの駒がe1またはe8に入ることによってKになることもある。

### <フェアリー盤>

**Grid Chess** : 盤面を16に分割したグリッド盤を使用し、指し手は、必ずどこかの境界線を越えなければならない。すなわち、同じ区域内での移動は禁手。チェックについても同様のルールが適用される。

### <フェアリー駒>

**Andernach Grasshopper** : ある駒を飛び越して動いたとき、その踏み台となった駒の色が変わって相手の駒になる Grasshopper。

**Camel** : (1,3)-Leaper。

**Contra Grasshopper** : Grasshopper のように1枚駒を飛び越した後、そのまま向きを変えずに、RまたはBのように動く駒。

**Dabbaba** : (0,2)-Leaper。

**Double Grasshopper** : 一度着地した地点からもう一度跳ぶ Grasshopper。最初の着地地点では駒は取れない。局面を変化させない跳ね方はできない。

**Dragon** : S+P。

**Grasshopper** : Qの筋で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する駒。そこに相手の駒があれば取れる。

**Invisible** : 盤上に存在するが、見えない駒。駒種と位置の両方が確定した瞬間に、その透明駒は透明性を失い普通駒となる。駒取りやメイトは、証明なしには主張できない。メイトとは、解答手順を成り立たせるようななどの

ような Invisible の代入に対しても、最終局面が通常のメイトになっていることを指す。

**Leaper** : S の様な動きの駒の総称。  $(x,y)$ -Leaper は駒の居る位置から縦横に  $(x,y)$  または  $(y,x)$  だけ離れた地点に着地する。間に駒があっても飛び越えられる。例えば S は  $(1,2)$ -Leaper。

**Leo** : Chinese piece の一つ。 Q のように動くが、駒を取るときはその線上で駒を一つ跳び越してその先（直後でなくてもいい）にある駒を取る。

**Lion** : Q の筋で、ある駒を 1 つ飛び越したその先の任意の地点に着地する駒。そこに相手の駒があれば取れる。

**Locust** : Q の筋で、相手の駒を 1 枚跳び越して、その直後の地点に着地する駒。着地点は空いている必要があり、かつ跳び越された駒は取られて消える（取りなしで動くことはできない）。

**Nao** : Nightrider のように動くが、駒を取るときはその線上で駒を一つ跳び越してその先（直後でなくてもいい）にある駒を取る。

**Neutral** : 白および黒のどちらからも動かせる駒。取ったり取られたりすることもできる。  $n$  の記号で表し、  $nQ$  という風に表記する。  $nP$  は成ると Neutral 駒に成る。ただし、普通の  $P$  が Neutral 駒に成ることはできない。フェアリー駒が盤上に現れている場合は、  $nP$  はその Neutral フェアリー駒に成れる。

**Nightrider** :  $(1,2)$ -Rider。

**Pao** : Chinese piece の一つ。 R のように動くが、駒を取るときはその線上で駒を一つ跳び越してその先（直後でなくてもいい）にある駒を取る。

**Rider** : R や B など一定の方向にどこまでも進めるが駒にぶつかるとその先には進めない駒の総称。  $(x,y)$ -Rider は進める方向が  $(x,y)$ -Leaper の延長となる。例えば R は  $(0,1)$ -Rider。

**Rook-Hopper** : R の筋の線上で、一つ駒を

跳び越して、その直後の地点に着地する駒。着地地点に敵の駒があれば取れる。

**Royal** : K の代わりにする駒。チェックやメイトの概念を、K ではなく Royal 駒に適用する。

**Saltador** : Argentinian Chess において S の代わりにする駒。経路の 2 箇所がブロックされている場合には、駒取りなしで跳べる。経路の 2 箇所がブロックされていない場合には、跳んで駒を取れる。

**Undefined piece** : 駒の位置だけがわかっているもの。

**Vao** : Chinese piece の一つ。 B のように動くが、駒を取るときはその線上で駒を一つ跳び越してその先（直後でなくてもいい）にある駒を取る。

**Variable** : 覆面駒とも呼ぶ。何かの駒のようなつもりで動かせる駒。それが何かは、相手の合法性およびチェックをかけている（あるいは連続系の場合、チェックをかけていない）などの前提によって決まる。変化の分岐において、Variable は異なる駒になりうる。問題図にフェアリー駒があるとき、概念を自然に拡張して、Variable はその駒にもなりうる。

**Wazir** : Vizir とも言う。  $(0-1)$ -Leaper。

**Zebra** :  $(2,3)$ -Leaper。

## 第 82 号解答成績

	D	E	H	S	F	R	U	計
Max	50	10	110	15	90	30	15	320
井上順一	10	3	47	5	47	8	15	135
内田 昭			45					45
小畑 勉	10		36	3				49
小林看空	29		110		15		10	164
及川弘典							10	10
駒井信久			110	10			15	135
齋藤光平							5	5
則内誠一郎	15		110	8	55		15	203
塩見 亮		5	89					94
原岡 望	15						10	25
星野健司	45		108	10			10	173
水野勝久	25		48	5	24		10	112
宮嶋亮一	5							5
渡邊一雄			54					54

本誌の熱心な会員であり、毎号解答を送っていただいた、小倉杏さんが今年の7月にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

第 82 号の解答者は 14 名とやや少なめ。

成績は、1 位が則内誠一郎さんで、203 点 (63%) をマーク。

2 位は星野健司さん (173 点、54%)、3 位は小林看空さん (164 点、51%) と、計 3 名が 50% を超えるスコアでした。

本号も多数の解答をお待ちしています。